



研究報告書

Nagoya Urban Institute Research Reports

No.88 2010.3

中川運河の再生に向けた活動報告

はじめに

名古屋都市センターは、まちづくりや都市計画における新しい課題を先取りし、その解決の糸口を提示するため、できるだけ幅広い視点に立って自主研究を実施しています。自主研究を進めるにあたっては、平成20年度からのメインテーマを「持続可能なNAGOYAへの変革～次世代に引き継ぐ魅力ある都市～」として、これに関連した研究テーマを設けて調査研究を行っています。

近年、汚れた河川や運河を再生し潤いのある水辺空間を取り戻そうとする活動が全国各地で行われています。そして、水質浄化や水環境の改善にとどまらず、賑わい空間の創出などからも水辺の再生が取り組まれています。

名古屋市においても、都市の貴重な水辺空間である堀川や中川運河に、市民の憩いや潤いの場としてだけではなく、賑わいの場としての役割が求められています。

中川運河は、物流形態の変化により水運利用が低下し、水面利用が少ない状況となっており、名古屋市の貴重な水辺空間にもかかわらず市民には遠い存在となっています。

そこで、本研究では、中川運河の再生に向けた市民参加イベントの活動報告と、活動を通しこれからの中川運河再生の取り組みについて展望します。

本研究の取り組みが、今後の名古屋のまちづくりの一助になれば幸いです。

平成22年3月

財団法人名古屋都市センター

目 次

I. 概要編	i
II. 本編	
第1章 研究の概要	1
1-1. 背景と目的	1
1-2. 再生活動の発端	2
第2章 中川運河の現状と課題	3
2-1. 中川運河の概要	3
2-2. 中川運河建設の経緯	5
2-3. 中川運河の利用状況	6
(1) 水運利用状況	
(2) 沿岸土地利用状況	
2-4. 中川運河整備基本計画	7
2-5. 中川運河重点拠点地区整備状況	8
(1) 中川口地区	
(2) 小碓・南郊地区	
(3) 堀止地区、(参考) ささしまライブ 24 地区	
(4) 露橋地区(露橋水処理センター、松重閘門周辺)	
2-6. 中川運河イベント状況	14
2-7. 中川運河での課題整理	15
(1) 水質の問題	
(2) 護岸の老朽化	
(3) 沿岸用地の土地利用規制	
第3章 水辺空間を活用した運河再生事例	16
3-1. 運河ルネッサンス(東京都)	16
3-2. 富岩運河(富山県)	17
3-3. 尼崎運河(兵庫県)	18
第4章 中川運河再生に向けた取り組み	19
4-1. 中川運河水上フェスティバルの開催	19
(1) イベント概要	
(2) イベントアンケートの結果	
(3) イベント開催に関する課題	
4-2. 中川運河・素敵未来フォーラムの実施	25
(1) フォーラム概要	
(2) フォーラムでの主な意見	
(3) フォーラムアンケートの結果	

4－3．中川運河に対する希望・・・・・・・・・・・・・・・・	32
(1) 中川運河で今後希望するイベント	
(2) 中川運河で今後希望する施設整備	
(3) 中川運河に対する意見・要望	
第5章 中川運河の再生に向けての展望・・・・・・・・	35
5－1．堀止・露橋地区・・・・・・・・・・・・・・・・	35
5－2．港明地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
第6章 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37

Ⅲ．資料編

I . 概要編

3. 市民参加イベントの実施

3-1 中川運河水上フェスティバルの実施

中川口を水上スポーツ・水上レクリエーション拠点を目指し、新たな水上レクリエーションが開催された。

(1) イベント概要

名称：第1回中川運河水上フェスティバル

日時：平成21年10月24日（土）10：00～16：00

会場：中川運河中川口水域（中川口閘門～いろは橋）

内容：カヌー教室、体験乗船（ボート、ドラゴンボート、ゴンドラ、観光遊覧船）、ラジコンヨット競技

主催：中川運河再生実行委員会

後援：ライオンズクラブ（みなと・熱田・瑞穂・中川・シニア・クオリティ）NPO 法人伊勢湾フォーラム、中川運河・堀川魅力再発見プロジェクト協議会、国土交通省中部地方整備局、名古屋市、名古屋港管理組合、名古屋都市センター

協力：海津カヌー協会、NPO 法人アクアフィールド長良、名古屋市ボート協会、愛知県カヌー協会、東海龍舟クラブ、NPO 法人ゴンドラと堀川水辺を守る会、桑名リバークルーズ、日本模型ヨット協会中部支部、名古屋みなと建設工事安全協議会

来場者：300名（体験乗船180名、遊覧船70名）

①カヌー教室（協力：NPO アクアフィールド長良）カナディアンペアとツーリングのシングルカヌーにてカヌー教室を行った。



写真1 カヌー教室（2番人気）

②ボート（協力：名古屋市ボート協会）

4名漕ぎのボートにより体験乗船を行った。

③ドラゴンボート（協力：東海龍舟クラブ）

練習用10名漕ぎドラゴンボートにより体験乗船した。



写真2 ドラゴンボート体験乗船（1番人気）

④ゴンドラ（協力：ゴンドラと堀川水辺を守る会）

堀川で運行している定員4名のゴンドラにより1回500円にて体験乗船した。



写真3 ゴンドラ体験乗船（3番人気）

⑤観光遊覧船（協力：桑名リバークルーズ）

揖斐川で運行している定員40名の観光遊覧船（トロワ・リヴェール号）1回500円にて体験乗船した。



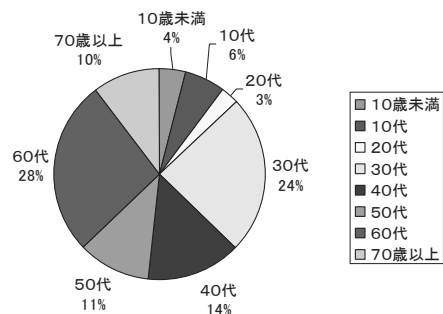
写真4 観光遊覧船（4番人気）

⑥ラジコンヨット（協力：日本模型ヨット協会中部支部）

ラジコンヨットのデモ演技が行われた。

(2) イベントアンケートの結果
イベント来場者にイベントの評価について簡単なアンケート調査を実施し、146名からの回答を得た。

①年代 (N=145)



参加者の63%が40代以上の中高年であり、学生層の10代以下は10%しか参加していない。

②年代 (N=146)

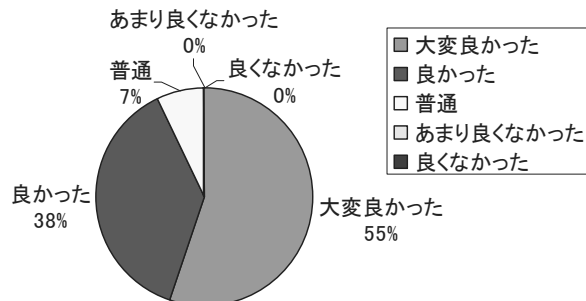
「男性」(59%)、「女性」(41%)となっている。

③住まい (N=143)

「市内」(79%)、「市外」(21%)となっている。

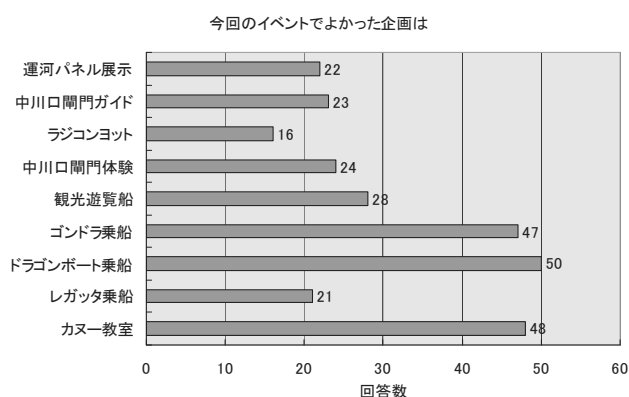
参加者の79%が名古屋市内であり、市内内訳は「港区」(45%)、「中川区」(23%)、「熱田区」(5%)、「瑞穂区」(5%)であり、大半が地元からの参加であった。

④イベントの感想 (N=138)



参加者の93%が「大変良かった」、「良かった」と感じており評価は良好であった。

⑤よかったイベント (複数回答可)



「ドラゴンボート乗船」(50)、「カヌー教室」(48)、「ゴンドラ乗船」(47)の人气が高かった。

(イベント来場者の感想)

「楽しかったです、水上フェスティバルを毎年実施してほしいです、いろんな水上スポーツを体験できて楽しかったです、中川運河クルーズ体験しとても貴重な体験でした、開門体験が面白かった、観光船が運行できないでしょうか」等と評価は良好であった。

(3) イベント開催に関する課題

①イベント内容

参加者の6割が40代以上の中高年であり、学生層が全体の1割しかないことから、学生がもっと参加できるように検討する必要がある。

②飲食施設

中川口緑地周辺には、休憩できる飲食施設がない。会場内で屋台などの飲食できるように検討する必要がある。

③交通アクセス

地下鉄港区役所駅より徒歩10分(約800m)ではあるが、心理的に遠いイメージがある。駅からの誘導などについて検討する必要がある。

④会場内の回遊性

会場内の移動が不便であった。フェンスなど改良する必要がある。遊歩道整備にあたり連続性を確保するため、橋下のアンダーパスの整備が望まれる。

3-2 中川運河・素敵未来フォーラムの実施

中川運河の再生に対する様々な意見をいただくため、フォーラムに関係したパネラーとして、環境デザインの堀越先生、ランドスケープデザインの岡田先生、人文地理学の竹中先生、ボートの青山さん、コーディネーターの稀温さん、名チャリ仕掛け人の原さんに登壇していただくことになった。

(1) フォーラム概要

名称：中川運河・素敵未来フォーラム

日時：平成22年2月12日(金) 14:00~16:30

会場：サンゲツ名古屋 6階 トウインビーホール

テーマ：「中川運河の素敵な未来を考える」

主催：(財)名古屋都市センター

パネリスト：

青山美紀氏(愛知県ボート協会理事・強化部副部長)

岡田憲久氏(名古屋造形大学大学院造形研究科教授)

稀温氏（コーディネーター、KION STUDIO 代表）
 竹中克行氏（愛知県立大学外国語学部准教授）
 原佳宏氏（㈱電通中部支社プロデューサー）
 堀越哲美氏（名古屋工業大学大学院工学研究科教授）
 進行役：
 羽根田英樹氏（名古屋都市センター研究主管）
 来場者：165 名



写真5 中川運河・素敵未来フォーラム (2/12)

（2）フォーラムでの主な意見

①中川運河の現状をどう見るか！ポテンシャルは！

- ・まちなかでボートができ、2000m直線コースがとれる貴重な場所である。
- ・韓国・清溪川再生をヒントにしたらいい。（ものづくりのエネルギー活用、まちなかの水辺空間）
- ・つまらない風景がいい。統制のとれたデザインができる場所である。
- ・幅が広く、水位が一定、水面に近いなどの特性がある。中川運河全体が近代化遺産である。
- ・都心と港を結ぶ運河、都心の貴重な水辺空間、歴史的遺産であるが、市民に全く知られていない。
- ・中川運河は「風の道」であり、都心部の大事な都市環境軸である。

②中川運河のめざすべき方向性は！

- ・遊歩道の整備（ランニングコースに活用）。水辺空間を広くするために、橋の改修では、橋桁をなくす。
- ・水質浄化し生命あふれる空間にする。人間再生、自然再生の場所としてアートや農業もいい。
- ・アーティストビレッジをつくる。自由な場所をつくり、まちは活性化させる。
- ・産業遺産的コンセプトを活かし整備する。都市計画道路（市バス）や歩道や橋の活用をする。
- ・アピールする情報発信や共有体験を創出する。今ある資産を活かす。

- ・運河に慣れ親しむ（道路から水面に入れる仕組み）。水と緑の環境軸（海側に沿岸森をつくる）。

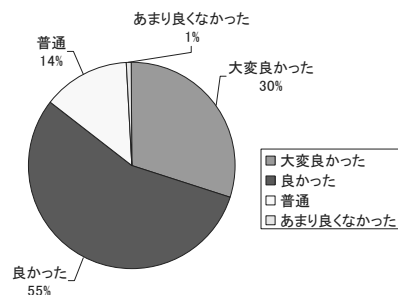
③中川運河において具体的に何をすべきか！

- ・利用者や市民のアイデアや声を集めて、みんなに知らせることからはじめてみる。
- ・風の道である中川運河をどう位置づけるか。港明地区を環境コンセプトの場とする。
- ・大学の授業にて中川運河でのビジネスをテーマにアイデアを募らせる。
- ・行政によるハコモノは不要であり、民間にまかせる。既存倉庫を活用し、クリエイターに提供する。
- ・協働体験できる仕組みをつくる。地代を上げる。（運河の利用価値が向上するために活用する。）
- ・道路から水辺に入れる路地をつくる。閘門通過体験させる。堀止・露橋・松重地区の回遊性をつくる。

（3）フォーラムでのアンケートの結果

来場者にフォーラムの評価について簡単なアンケート調査を実施し、103名からの回答を得た。

①フォーラムの感想（N=103）



参加者の85%が「大変良かった」、「良かった」と感じており評価は良好であった。

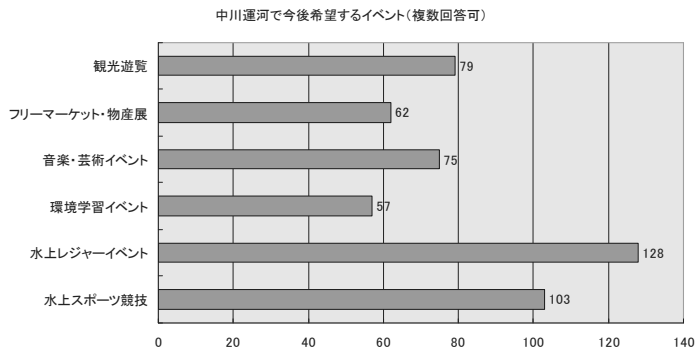
（フォーラム来場者の感想）

「パネリストの選定が様々なジャンルの方から選ばれており大変おもしろかった、中川運河における産業や生活に根ざした景観があると知ることができた、環境の軸としての運河とか環境、人間の再生につながる発想などおもしろかった、次回は中川運河に隣接する施設でフォーラムを実施してください」等と評価は良好であった。

3-3 中川運河に対する希望

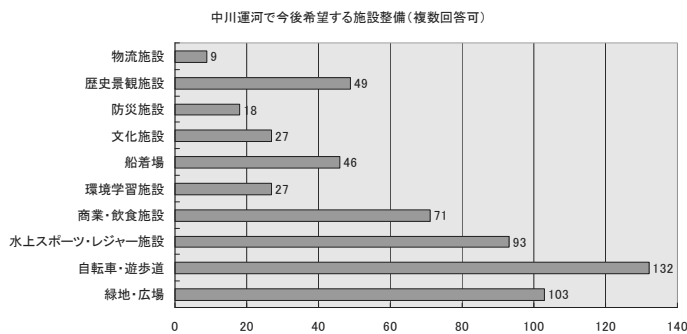
中川運河水上フェスティバル及び中川運河・素敵未来フォーラムにて、中川運河で今後希望するイベントと施設整備についてアンケートを実施し、249名からの回答を得た。

（１）中川運河で今後希望するイベント



カヌーやゴンドラなどの「水上レジャーイベント」(128)、「レガッタやドラゴンボートの「水上スポーツ競技」(103)、「観光遊覧」(79)の人气が高かった。いずれも水辺を活かしたイベントであり、水辺に憩いや賑わいを望む結果となった。

（２）中川運河で今後希望する施設整備



「自転車・遊歩道」(132)、「緑地・広場」(103)、「水上スポーツ・レジャー施設」(93)の人气が高かった。いずれも水辺に近づく、水辺で憩える施設を望む結果となった。また、「商業・飲食施設」(71)の人气もあり、水辺の風景を見ながら休憩できる施設や賑わいとなる施設を望む結果となった。

4. 中川運河の再生に向けての展望

中川運河の再生に向けて、市民や企業の意見を反映させることが必要である。中川運河で今後大きく変貌する可能性のある堀止・露橋地区と港明地区に着目し再生に向けての取り組みを展望する。

4-1 堀止・露橋地区

都心の賑わい空間をめざし、「ささしまライブ 24」地区では再開発が進められている。そこを訪れた人々がさらに堀止緑地、露橋水処理センター、松重閘門を訪れることができるように、水辺風景の眺望や回遊性のある空間整備や土地利用転換を図り、賑わいの連続性を確保することが望ましい。

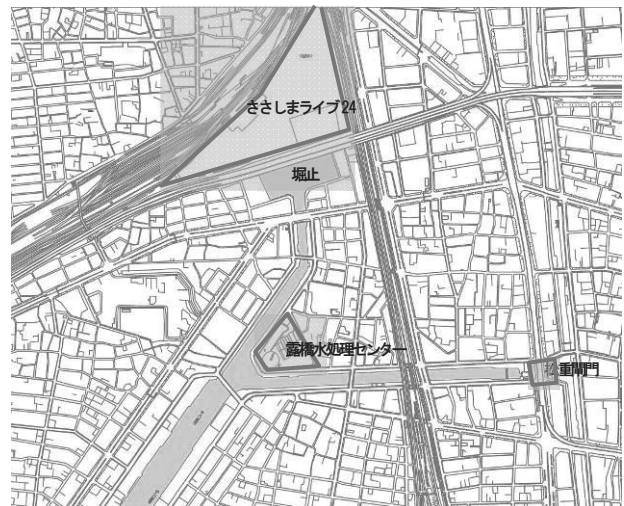


図3 堀止・露橋地区平面図

4-2 港明地区

商業施設（ベイシティ）や東邦ガス大規模工場跡地を視野に入れ、荒子川公園と港北公園を結び回遊性を確保し、水と緑の回廊にすることで魅力ある空間形成が期待できる。また中川口では、レガッタやカヌーイベント等水上スポーツ・レクリエーションのこれまでの経験を活かし、一層発展させていくことが望ましい。

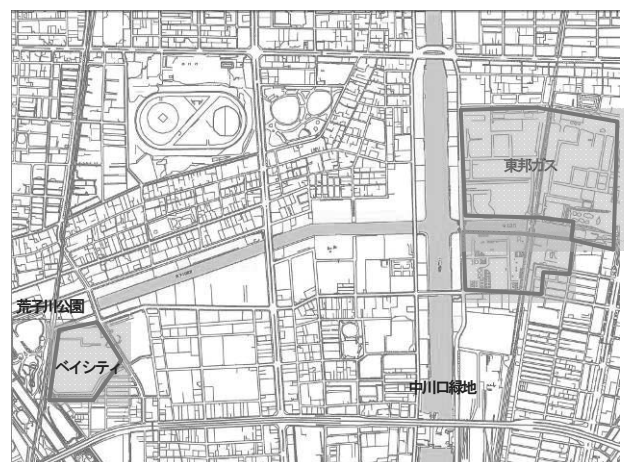


図4 港明地区平面図

5. まとめ

今回の活動を通じて、中川運河には多くのポテンシャルがあり、都心の魅力ある水辺空間であることを再認識できた。中川運河は、名古屋の貴重な水辺空間であり、市民の共有財産である。中川運河の再生に向けて、水質を浄化し、市民が水面に近づき、ふれあい、魅力を感じてもらうことが大事である。

Ⅱ. 本 編

第1章 研究の概要

1-1. 背景と目的

近年、汚れた河川や運河を再生し潤いのある水辺空間を取り戻そうとする活動が全国各地で行われている。

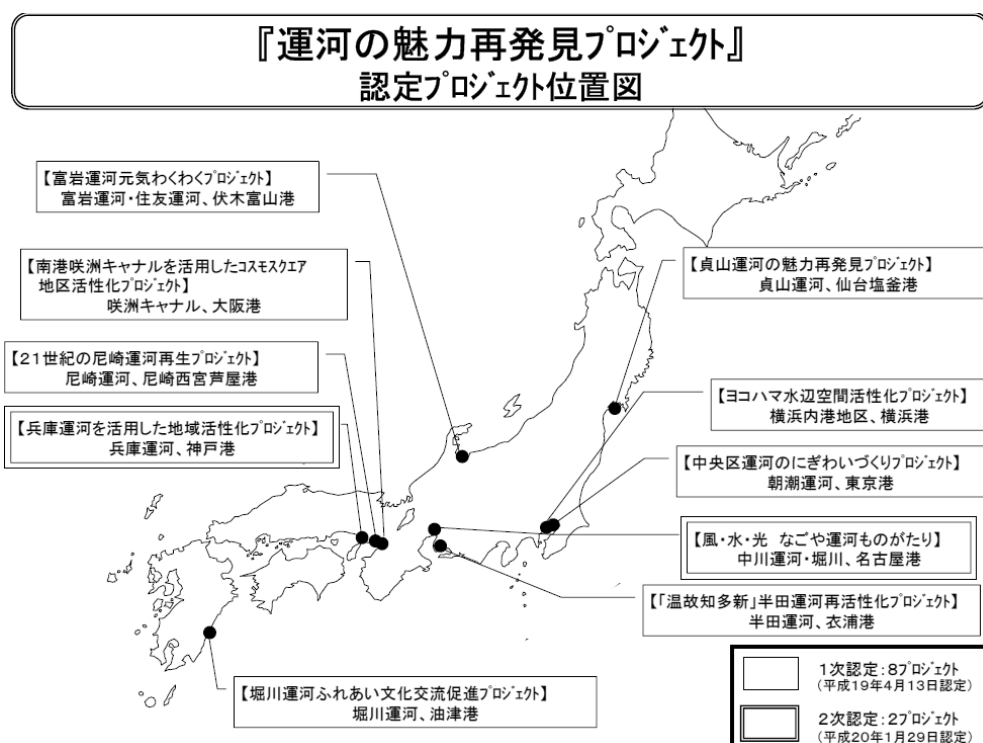
そして、水質浄化や水環境の改善にとどまらず、賑わい空間の創出などからも水辺の再生が取り組まれている。

名古屋市においても、都市の貴重な水辺空間である堀川や中川運河に、市民の憩いや潤いの場としてだけでなく、賑わいの場としての役割が求められている。

中川運河は、物流形態の変化により水運利用が低下し、水面利用が少ない状況となっている。

全国の運河も同様で、平成19年1月に国土交通省港湾局は、運河を核とした魅力ある地域づくりを目的とした『運河の魅力再発見プロジェクト』を立ち上げ、全国10地区の運河についてプロジェクト認定し支援している。

本研究では、中川運河の再生に向けた市民参加イベントの活動報告と、活動を通しこれからの中川運河再生の取り組みについて展望するものである。



1-2. 再生活動の発端

NPO法人伊勢湾フォーラムと名古屋堀川ライオンズクラブの申請により、平成20年1月に中川運河・堀川が『運河の魅力再発見プロジェクト』に認定され、平成20年7月に『中川運河、堀川の魅力再発見プロジェクト協議会』が設置された。

そして、協議会事務局であるNPO法人伊勢湾フォーラムの活動を支援するため、名古屋都市センターが中川運河プラットフォームを立ち上げ再生に向けた活動をするようになった。

プラットフォームは、市民団体（NPO法人伊勢湾フォーラム、名古屋ライオンズクラブ）、水辺に関心のある市民、学識者、行政（名古屋市、名古屋港管理組合）そして名古屋都市センターで構成されている。

プラットフォームの具体的な活動は、関係者の情報交換を進めるとともに、中川運河を環境と創造機能を主体とした都市軸と位置づけ、水上レクリエーションイベントと2010年に開催されるあいちトリエンナーレと連携した運河アートに取り組んでいる。

また、プラットフォームでは、行政との調整を図りながら、中川運河の現状と課題を整理し、今後の中川運河のあり方についても検討を進めている。



第2章 中川運河の現状と課題

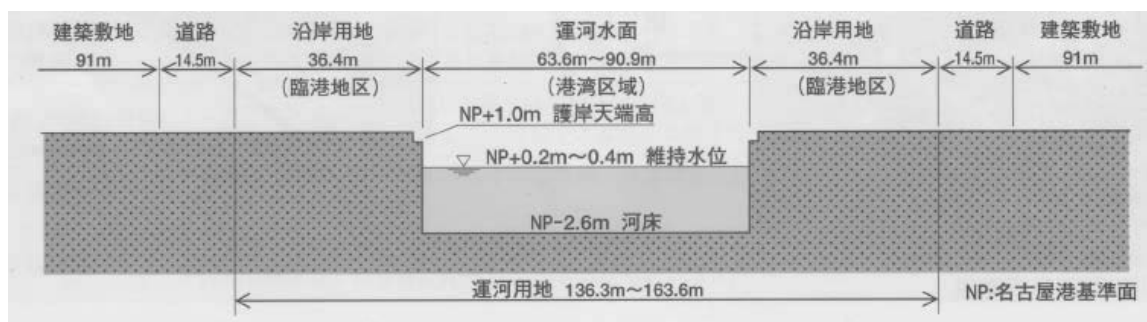
2-1. 中川運河の概要

中川運河は、名古屋港と名古屋駅とを連絡する港湾施設としての水運機能を受け持つため、松重と中川口に閘門を設け、水位が一定に維持される閘門式運河として名古屋市によって整備された。大正15年に工事を着手し、昭和5年には、幹線及び北支線の使用が開始され、昭和7年に東支線の開通をもって運河全線の使用が可能となった。この運河により沿線における関連機能が整備され、西南部の発展の拠点となった。

昭和26年から港湾管理者である名古屋港管理組合が水域の管理と沿岸用地の管理をし、名古屋市より無償貸与を受け港湾関連企業への貸付を行っている。

中川運河の概要

形 式	閘門式、開削運河
延 長	約8,210m（幹線約6,390m、支線約1,820m）
幅 員	幹線63.6m～90.9m、支線36.4m
水 深	約3m（河床N.P-2.6m）
水 面 積	約60ha（港湾区域）
沿岸用地	36.4m（臨港地区）
管 理 者	名古屋港管理組合（港湾管理者）
土地所有者	名古屋市



中川運河標準断面図

2-2. 中川運河建設の経緯

第一次世界大戦（大正8年）を契機に名古屋市の工業都市化が急進展し、名古屋港の取扱貨物も増大した。市域と名古屋港を結ぶ交通機能の強化が不可欠となり、堀川、新堀川に加え、新しい運河の開削が強く求められた。

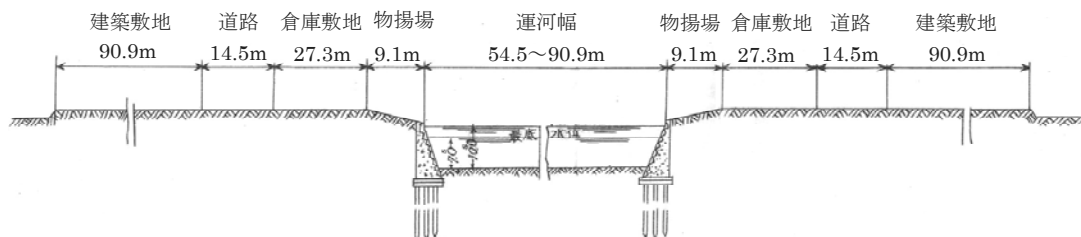
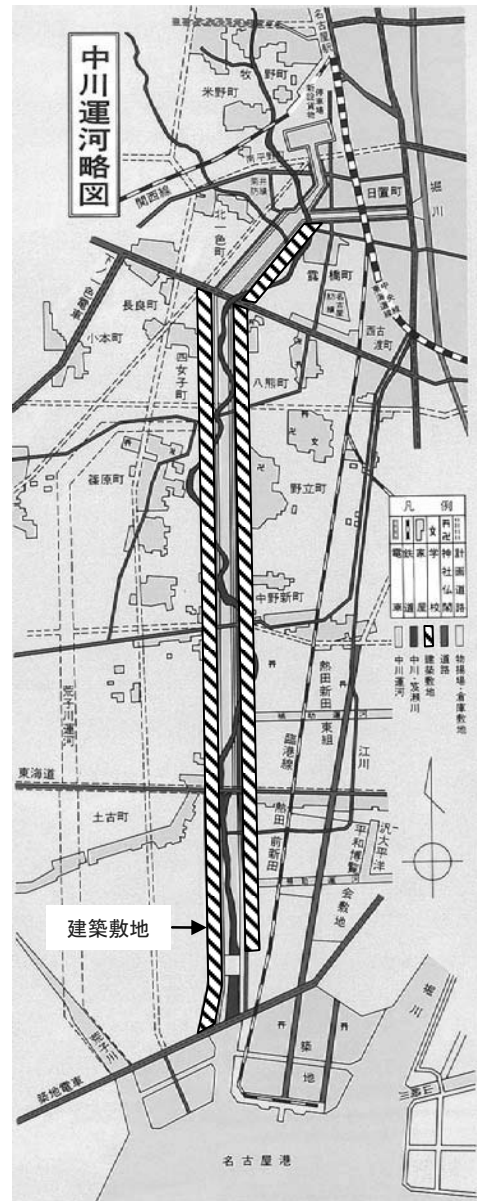
名古屋市は、大正13年6月に、都市計画事業として中川運河、荒子川運河、山崎川運河、大江川運河を運河化する運河網計画を決定し認可された。

本市西南部は、大正13年の都市計画決定により工業地域に指定されたが、地盤が低湿で、名古屋港平均水位以下の地域もあることから、埋立をしなければならなかった。

河の開削事業の付帯事業として運河兩岸の建築敷地造成事業が実施された。これは運河土地式に分類される土地区画整理の一手法で、運河を掘った土で兩岸の工場地を造成する一石二鳥の方法であり、完成した建築敷地には工場が誘致された。この計画は、日本の都市計画事業として最初の試みであった。

工事は大正15年10月に着工し、中川運河の開削と同時に、南郊、小碓、港北、寛政（荒子川）の各運河支線が開削され、これらの開削土を盛って運河両側を埋立造成した。

総工費1,886万円と7か年に及ぶ工期を費やして、昭和5年10月に本線及び北支線使用開始し、昭和7年10月に運河全線開通し、名古屋港と笹島貨物駅間を結ぶ8.2Kmの閘門式の運河が完成した。完成当時は、「東洋一の大運河」と呼ばれた。



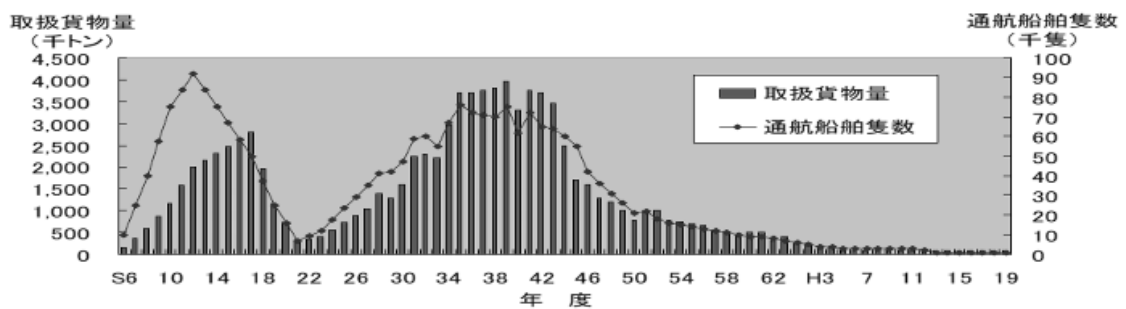
2-3. 中川運河の利用状況

(1) 水運利用状況

中川運河の取扱貨物量は、朝鮮戦争による特需により昭和 39 年度に 401 万トンと最高を記録したが、平成 19 年度は 4 万トンまで落ち込んでいる（ピーク時の 1%）。

ピーク時の昭和 35 年の取扱品は、窯業・土石製品（55%）、鉄鋼（19%）、石油・石炭（9%）で 8 割方を占めた。なお、現在の取扱品は、重油等の石油類（100%）のみとなっている。

中川運河の通航船舶数は、平成 19 年度で入出航合わせて 1,254 隻となっている。（ピーク時の 2%）船の種類は、ほとんどが小型タンカー船である。



中川運河の取扱貨物量と通航船舶数の推移



物流最盛期の中川口閘門



現在は小型タンカー船のみ

(2) 沿岸土地利用状況

沿岸用地は、名古屋市の財産であり、名古屋港管理組合設立の昭和 26 年より協定にて名古屋港管理組合が土地の無償貸与を受け土地の管理をし、港湾関連企業への貸付を行っている。

現在、沿岸用地は臨港地区（商港区）になっており、貸付面積約 32.6ha、貸付企業数約 250 社、貸付財産収入約 12 億円／年となっている。利用状況は、倉庫（61%）、倉庫兼加工場（8%）で 7 割方を占めている。

2-4. 中川運河整備基本計画

物流形態の変化により、水運利用が低下し、市街地における貴重な水辺空間として新たな利用のあり方が求められるようになり、港湾物流機能、親水・治水機能など基本的な方向を示すマスタープランとして、名古屋市と名古屋港管理組合が共同で以下のような「中川運河整備基本計画」を平成5年3月に策定した。

【中川運河整備計画の概要】

目標	①親水性に満ちたウォーターフロントの創造 ②高度な物流空間の形成 ③安全なまちづくり	
コンセプト	港と都心を結ぶ快適な水辺環境軸の形成	
機能別計画（機能分野及び整備方針）		
水域利用	物流空間の再編・高度化	運河筋に分散している物揚場及び倉庫・運輸業並びに卸・小売業の集約・再配置をすすめるとともに、物流機能の強化のための基盤整備を促進する。
	水上交通の誘導	運河の水運機能を活用して、観光、レクリエーション等の利用を対象とした都心と港を結ぶ水上交通の誘導を図る。
	賑わい空間の形成	人々がくつろぎ、楽しめる空間の形成、また、水辺の市民開放や水域の活性化を図るため、アミューズメント施設の誘導やウォータースポーツ・レクリエーション施設の整備を促進する。
防 災	治水機能の向上	運河を地域排水の根幹的施設と位置づけ 30 年に 1 回程度降る雨（76mm/h）に対処できる水準で整備し、背後市街地の治水安全度の向上を図る。また、運河の持つ雨水貯留能力の強化を図る。
	防災ネットワークの形成	緊急時の輸送経路としての運河の利用を図るとともに、運河空間の持つ防火・延焼遮断帯としての機能の強化支援や水際遊歩道と避難路とのネットワーク化を図る。
環境整備	水辺環境の整備	水辺の持つ特性を活かした親水緑地や運河全域を巡らせた水際遊歩道（護岸を概ね 5m 水域にだす）の整備により、人々がいきいき、交流できる豊かな親水空間の創出を図る。
	水質の浄化	中川運河のイメージを向上させるため、浄化対策の総合的な実施により水質の改善を図り、環境基準の恒常的な達成を図る。
	景観の形成	水面と沿岸が調和した水際空間を創出するとともにランドマーク等の視覚的演出を図る。また、色彩やデザイン、夜景等に配慮した効果的な演出を図る。
重点拠点地区（8 地区）		
堀止地区、露橋地区、八熊橋地区、野立橋地区、昭和橋地区、小碓・南郊地区、荒子川地区、中川口地区		

2-5. 中川運河重点拠点地区整備状況

中川運河整備基本計画策定後、親水緑地等の整備が進められている。

(1) 中川口地区

賑わい空間の形成として、水上スポーツ施設となる名古屋港漕艇センターを整備している。整備年度：平成4年度

治水機能の向上として老朽化した中川口ポンプ所（1～3号機）の改修を行っている。

整備年度：平成4年度～平成13年度 排水能力：45.3 m³/s

水辺環境の整備として、中川閘門下流部西側においては水際遊歩道の整備、中川口閘門～いろは橋間の両岸においては、水際遊歩道、芝生広場及び多目的広場を整備し、地域住民の憩いの場となっている。また、緑地整備にあわせ快適な水辺空間を提供するため、緑地前面水域には水質浄化施設（ばっ気装置）が設置されている。

整備年度：平成5年度～平成8年度（中川口西遊歩道）

平成9年度～平成19年度（中川口緑地）

整備面積：約3.2ha



中川口西遊歩道



中川口緑地



中川口ポンプ所



名古屋港漕艇センター

（２）小碓・南郊地区

名古屋市は南郊運河、小碓運河も物流機能の低下に伴い、南郊運河は平成 9 年 1 月、小碓運河は平成 9 年 7 月に一部埋立を完了している。

南郊公園は、都市公園として整備（整備面積 3.14h a）され昭和 57 年に開園しており、小碓緑道は親水空間として平成 10 年に整備完了している。



南郊公園（東側）



小碓緑道（西側）

(3) 堀止地区

名古屋港管理組合は、「ささしまライブ 24 地区」と連携し、賑わいと親水性のある緑地整備を平成 22 年度から着手している。

西側は、埋め立てて芝生広場とし親水性を高めるため緩傾斜護岸にて整備され、外周は水際まで近づけるようにプロムナードとして整備される。

北側は、名古屋市が露橋水处理センターで高度処理された下水再生水を有効活用したせせらぎ施設のある公園として整備される。

また、堀止地区は小型栈橋が港湾計画に位置づけられており、将来は港の玄関口として船の発着が期待される。

整備年度：平成 22 度～平成 25 年度 整備面積：1.1ha



堀止緑地整備イメージ



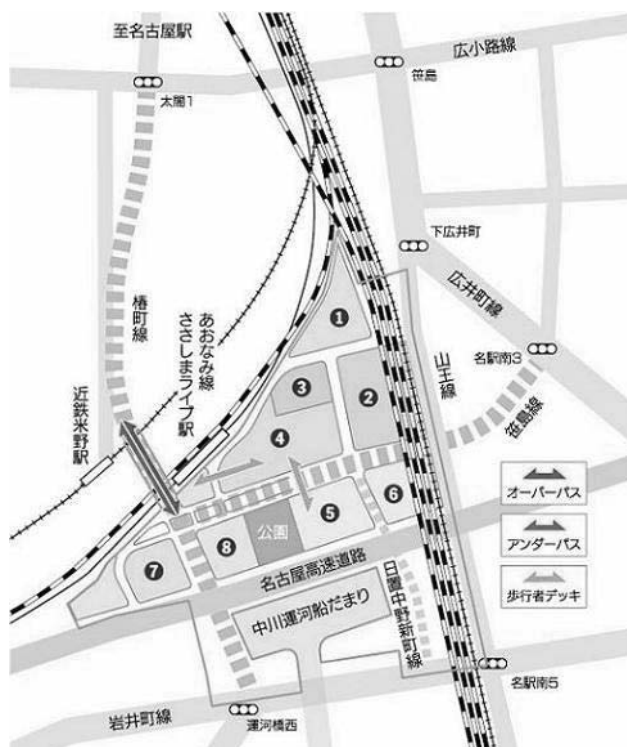
ささしまライブ 24 地区公園から堀止への鳥瞰イメージ



（参 考）ささしまライブ 24 地区

名古屋市にて旧国鉄笹島貨物駅跡地の約 12.4ha と堀止周辺を含む「ささしまライブ 24 地区」において大規模な開発が進められている。

名古屋大都市圏の玄関口にふさわしい活気と魅力に満ちたまちをめざして、道路・公園などの都市基盤整備を名古屋市施行の土地区画整理事業等で行うとともに、開発提案協議によりコンベンション機能をもつホテル等の「(仮称) グローバルゲート」や愛知大学校舎の建設が予定されており、交流や賑わいの場として形成される。



ささしまライブ 24 地区開発状況図



グローバルゲート



愛知大学名古屋校舎

建築計画の概要

番号	開発の計画・状況	敷地面積	開業予定
①	未定	約1.0ha	未定
②	シネコン、アムューズメント等(ラ・バーモささしま) ライブホール(Zepp Nagoya)	約1.0ha	開業中
③	国際交流・研修施設(JICA中部国際センター)	約0.6ha	開業中
④	事務所、ホテル、コンベンション、商業等 (仮称)グローバルゲート	約1.7ha	H25.9開業予定
⑤	大学(愛知大学名古屋校舎(ささしま))	約1.5ha	H24.4開校予定
⑥			H27.4開校予定
⑦	共同住宅等	約0.8ha	未定
⑧	共同住宅等	約0.7ha	未定

④～⑥は平成19年度に実施した開発提案競技によるプロジェクト

(4) 露橋地区

①露橋水処理センター

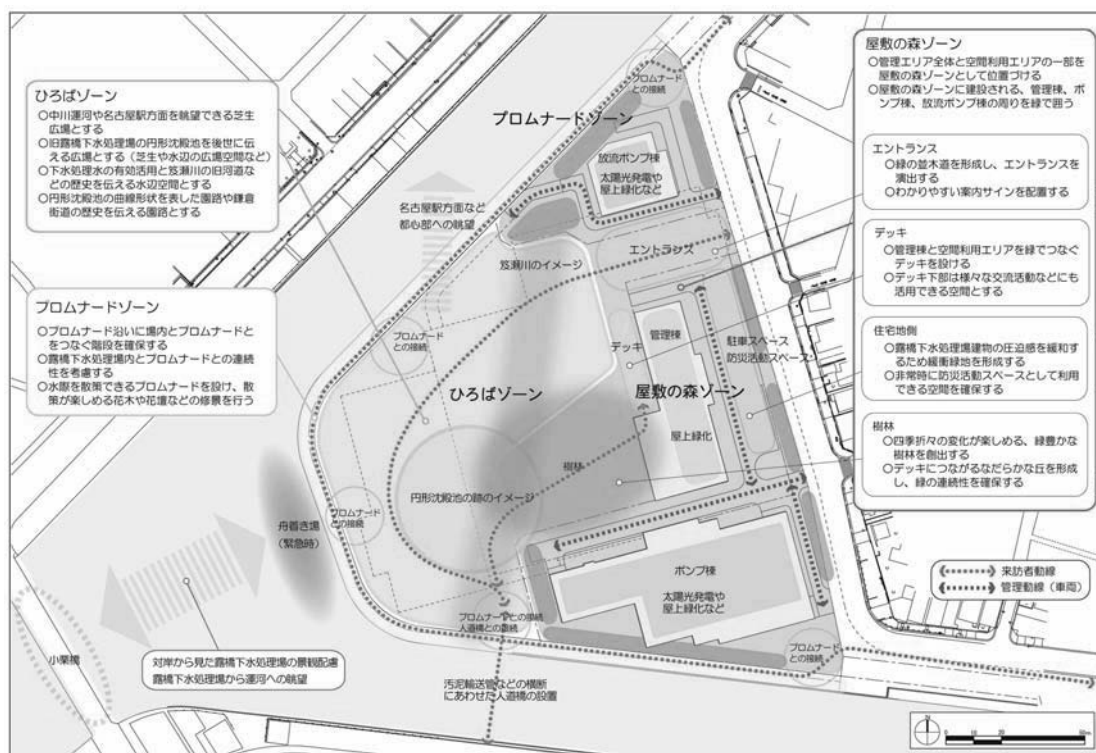
露橋水処理センターは、昭和 8 年 11 月に名古屋市で 3 番目の下水処理場として供用開始した。建設後 70 余年を経過し、施設の老朽化が顕著になったことから、平成 16 年 4 月に水処理を停止し、全面改築更新工事に着手し平成 26 年度に完成を予定している。

改築後は、窒素、リンが除去された高度処理水が放流されることになり、中川運河の水質改善に寄与するものと期待されている。

水処理施設は、すべて地下化することとしており、建屋（地上施設）は、ポンプ棟、管理棟、放流ポンプ棟の 3 棟とし、上部空間は、「屋敷の森」「ひろば」として整備され、市民開放される。また、水際線は、プロムナードが設置される。

整備年度：平成 16 度～平成 26 年度

整備面積：2.6ha



空間利用総括図（出典：露橋下水処理場空間利用検討報告書 平成 20 年 8 月）

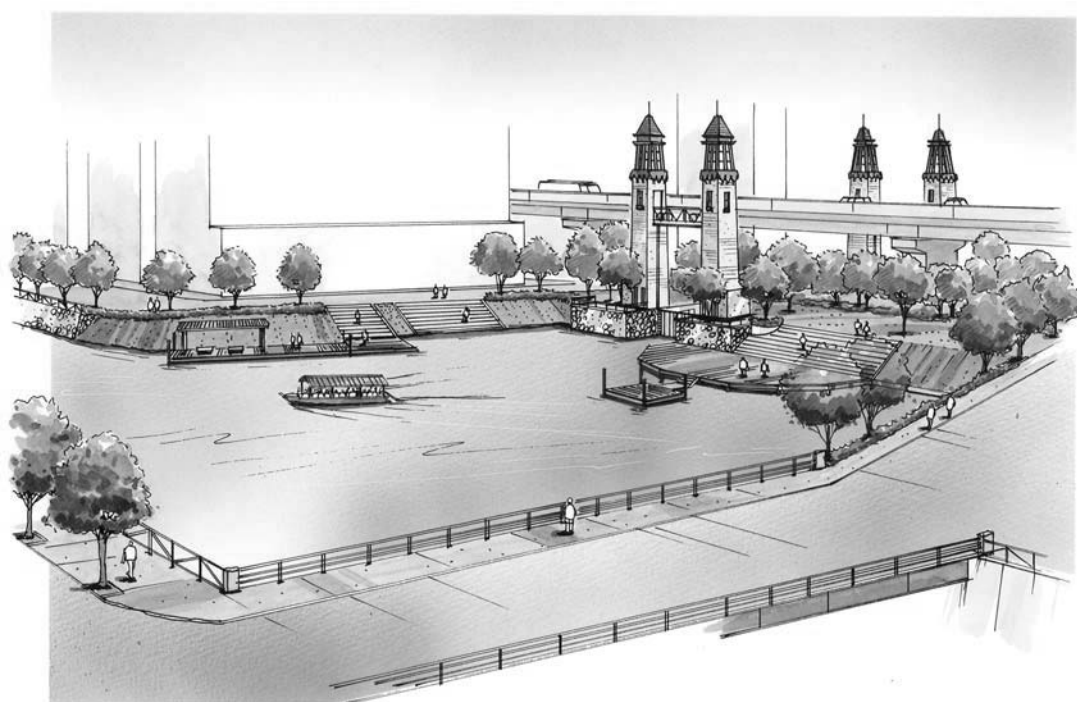
②松重閘門周辺

松重閘門では、歴史遺産の保存・活用として松重閘門のライトアップが昭和 60 年度より行われている。また、平成 20 年度から耐震補強工事に合わせ、外観を建設当時に復元する改修工事を行われている。

堀川側の松重閘門周辺では親水広場として整備を予定している。船だまりを活用し、水上ステージや船着場の整備も検討され、松重閘門を観光スポットとして再生する計画となっている。



松重閘門ライトアップ



一級河川庄内川水系 堀川圏域河川整備計画（案） 松重閘門周辺イメージ

2-6. 中川運河イベント状況

名古屋港管理組合は、海事思想の普及を図るため、平成5年4月港区中川本町に「名古屋漕艇センター」を開設し、現在、中川口水域において、「市民、親子ボート教室」、「名古屋レガッタ」などのボート関連のイベントが開催されている。

なお、同センターの管理運営は名古屋港漕艇センター運営協議会（名古屋市ボート協会等）が行っている。



名古屋レガッタ開催風景（中川運河中川口水域）

中川口水域における水上イベント開催状況

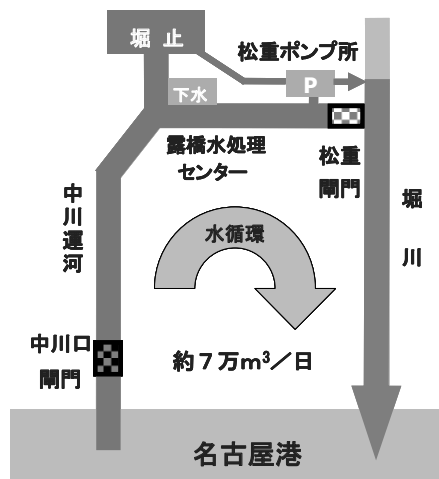
開催月	イベント名	主催者
5～9月	市民、親子ボート教室	名古屋市教育スポーツ振興事業団 名古屋市ボート協会
6月	名古屋大学対大阪大学	名古屋大学
8月	市民スポーツ祭ボート大会	名古屋市ボート協会
10月	審判養成事業	名古屋市ボート協会
10月	名古屋レガッタ	名古屋市ボート協会
10月～2月	ジュニア競技力向上事業	名古屋市ボート協会
2月	ラジコンヨット日本選手権	日本模型ヨット協会
3月	審判養成事業	名古屋市ボート協会
3月	ロングレース	名古屋市ボート協会

2-7. 中川運河での課題整理

(1) 水質の問題

閘門式運河のため、閉鎖性水域であるが、現在中川口ポンプ所より約7万 m^3 の海水を取水し、松重ポンプ所から堀川へ排水し水循環が行われている。しかし、運河の総貯水量が約170万 m^3 であるので、水循環といえどもわずかである。

中川運河水域が「合流式下水道区域」であるため、晴れた日にはすべての汚水が水処理センターに送られて処理されるが、雨の日は一定量を超えた雨水は汚水と一緒に雨水吐口などから直接運河へ放流されるため汚濁の原因となっている。上流の露橋地区では雨水滞水池の整備が必要となっている。



(2) 護岸の老朽化

昭和5年のしゅん工以来、80年が経過し、人造石護岸は老朽化している。名古屋港管理組合では、護岸改良の目的で昭和44年より、運河側5mに矢板を打設し「前出し護岸」を劣化状況に応じて部分的に施工している。護岸総延長は15,723mあり、護岸改良率は約43%となっているが、全長を改良するには莫大な費用と年数が必要とする。



(3) 沿岸用地の土地利用規制

沿岸用地の用途地域としては、堀止から名古屋港にかけて、準工業地域、工業地域、工業専用地域に指定されているとともに、臨港地区に指定されており、港湾法により建築物用途が規制されている。

中川運河は、港湾法で旅客又は一般の貨物を取り扱わせることを目的とする「商港区」に定められており、現行では飲食施設や商業施設は認められていない。

また、港湾関連の港湾関連の倉庫が建ち並んでいる区間は、一般市民が道路側から水辺に近づくことができない。



第3章 水辺空間を活用した運河再生事例

水辺空間を活用した運河再生は全国で行われている。水域占用の規制緩和を行い賑わいの創出をしている天王洲運河（東京都）、都市公園とともに再整備し観光資源となっている富岩運河（富山県）、市民・市民団体、行政、企業が参加し協議会を設立し活動している尼崎運河（兵庫県）の再生事例を紹介する。

3-1. 運河ルネッサンス（東京都）

運河ルネッサンスは、水辺の魅力向上や観光振興に資するため、運河等の水域利用と周辺のまちづくりが一体となって、地域の賑わいや魅力等を創出することを目的とした取り組みである。

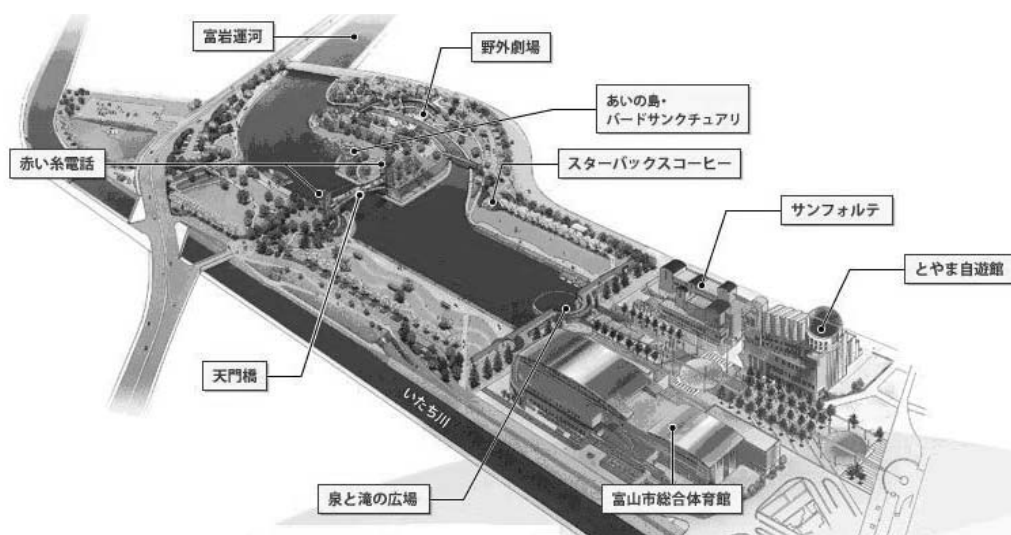
東京都港湾局は、地域協議会からの提案を踏まえて、「運河ルネッサンス推進地区」を指定し、推進地区では水域占用の規制を緩和しているほか、運河まつりなど地域イベントの技術的支援、護岸・遊歩道などの整備推進など各地区の取り組みを積極的に支援し、地域と一体となって水辺の魅力づくりを行っている。



天王洲運河 浮体式水上レストラン

3-2. 富岩運河（富山県）

富岩運河は、中川運河と同じく閘門式の開削運河である。物流形態の変化に伴い、運河の利用が低下し、運河の埋立計画もあったが、昭和60年「とやま都市MIRAI地区」として富山駅北を再整備することになり、富岩運河も貴重な水辺空間として生まれ変わった。運河最上部に整備された富岩運河環水公園では、遊覧船運行やカヌー大会、野鳥観察会、野外コンサートなど人々が賑わうイベントが開催され、多くの市民や観光客にとって憩いの場となっている。公園内には、都市公園初となるスターバックスコーヒーが立地し、休憩しながら眺望できる施設がある。



富岩運河環水公園



富岩水上ライン



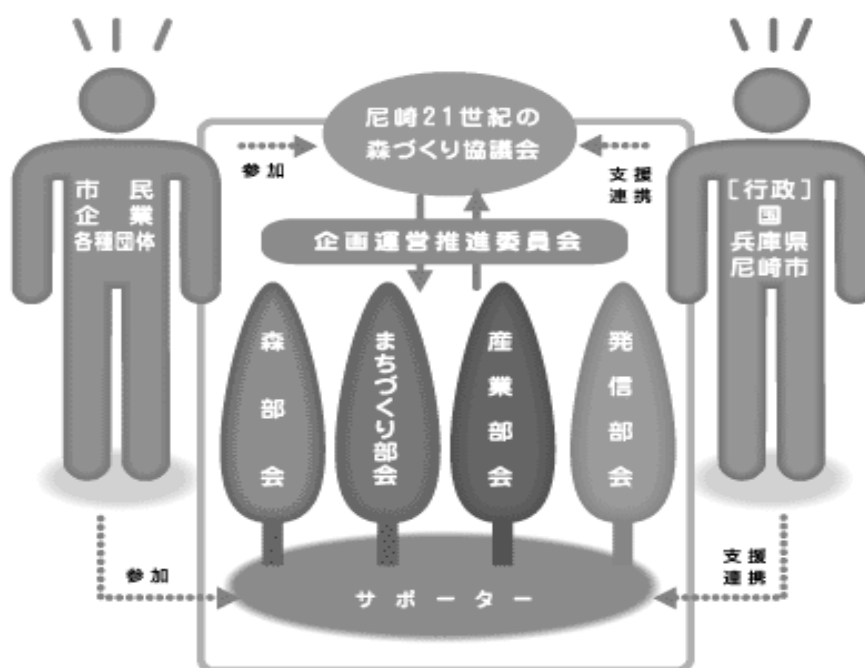
休憩施設（スターバックスコーヒー）

3-3. 尼崎運河（兵庫県）

「尼崎 21 世紀の森づくり構想」は、尼崎市の臨海部約 1,000 h a の区域を対象とした地域再生プロジェクトである。

臨海部を「森と水と人が共生する環境創造のまち」とすることをテーマに、市民・市民団体、企業、行政（兵庫県、尼崎市）、学識者からなる「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」を 2002 年に設置し活動している。

協議会は、協議会本体と 4 つの部会（森部会、まちづくり部会、産業部会、発信部会）、企画運営委員会からなり、協議会委員、部会委員、サポーター（約 250 人）から構成されている。



「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」構成図

主な活動は、以下のとおりである。

- ①森づくり（自然林観察会、市民協働型工場緑化等）
- ②まちづくり（花づくり、運河利用したイベント等）
- ③産業関連（産業フォーラムの実施等）
- ④情報発信（フリーペーパーの発行等）

特に地域の資源としての運河の価値を再発見し、「尼崎うんぱく」を毎年開催し、運河クルーズやE ボートなど運河を使った市民イベントを実施している。

第4章 中川運河再生に向けた取り組み

4-1. 中川運河水上フェスティバルの開催

プラットフォームでは、中川運河再生の第1歩として中川口を水上スポーツ・水上レクリエーションの拠点を目指し、多くの市民が参加し水辺を体験できるイベントを企画した。

水面が穏やかで幅が広い運河特性を生かし、新たな水上レクリエーションとしてカヌー教室をメインとしてボート、ドラゴンボート、ゴンドラの体験乗船、観光遊覧船などの内容で実施することにした。

(1) イベント概要

- 名 称：第1回中川運河水上フェスティバル
- 開催日時：平成21年10月24日（土）10：00～16：00
- 会 場：中川運河中川口水域（中川口閘門～いろは橋）
- 内 容：カヌー教室、体験乗船（ボート、ドラゴンボート、ゴンドラ、観光遊覧船）、ラジコンヨット競技、
- 主 催：中川運河再生実行委員会
- 後 援：ライオンズクラブ（みなと・熱田・瑞穂・中川・シニア・クォリティ）
NPO 法人伊勢湾フォーラム、中川運河・堀川魅力再発見プロジェクト協議会、国土交通省中部地方整備局、名古屋市、名古屋港管理組合、（財）名古屋都市センター
- 協 力：海津カヌー協会、NPO 法人アクアフィールド長良、名古屋市ボート協会、愛知県カヌー協会、東海龍舟クラブ、NPO 法人ゴンドラと堀川水辺を守る会、桑名リバークルーズ、日本模型ヨット協会中部支部、名古屋みなと建設工事安全協議会
- 来 場 者：300名（体験乗船180名、遊覧船乗船70名）



①カヌー教室

NPO 法人アクアフィールド長良の協力により、カナディアンペアとツーリングのシングルカヌーにてカヌー教室を行った。中川運河の特性である一定水位で静穏な水域を活かし、参加者は転覆することなくカヌーを楽しむことができた。

②ボート

名古屋市ボート協会の協力により、4名漕ぎのボートにより体験乗船を行った。オールを漕ぎボートを楽しむことができた。



カヌー



ボート

③ドラゴンボート

東海龍舟クラブの協力の下、練習用 10 名漕ぎドラゴンボートにより体験乗船した。太鼓の音により掛け声あわせて漕ぐため、参加者も一体感があり楽しむことができた。

④ゴンドラ

NPO法人ゴンドラと堀川水辺を守る会の協力により、堀川で運行している定員 4 名のゴンドラにより 1 回 500 円にて体験乗船した。乗船時間 15 分間にて中川運河の水辺風景を楽しむことができた。



ドラゴンボート



ゴンドラ

⑤観光遊覧船

桑名リバークルーズの協力により、揖斐川で運行している定員 40 名の観光遊覧船（トロワ・リヴェール号）により 1 回 500 円にて体験乗船した。ガーデンふ頭ポートビル棧橋を出発して中川口閘門を通過し、堀止船溜りで折り返す乗船時間 2 時間のルートにて、午前、午後 1 回運行し、中川運河の水辺風景を楽しむことができた。特に閘門通過体験は参加者より好評であった。

⑥ラジコンヨット

日本模型ヨット協会中部支部の協力により、ラジコンヨットのデモ演技が行われた。会場がいろは橋の北側水域で行われたため、見学者が少なかった。



観光遊覧船



ラジコンヨット



閘門通過体験



閘門説明模型

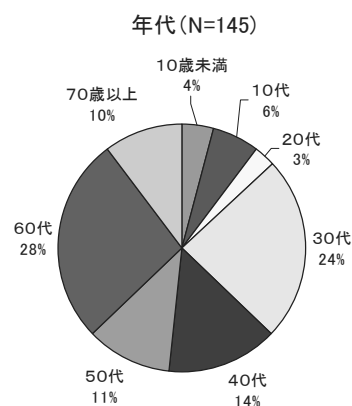
(2) イベントアンケートの結果

水上フェスティバル来場者にイベントの評価について簡単なアンケート調査を実施し、146名からの回答を得た。

①年代 (N=145)

「60代」が28%と最も高く、以下、「30代」(24%)、「40代」(14%)、「50代」(11%)、「70代以上」(10%)、「10代」(6%)、「10歳未満」(4%)、「20代」(3%)の順となっている。

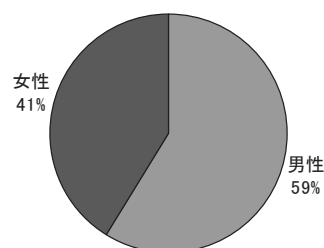
参加者の63%が40代以上の中高年であり、学生層の10代以下は10%しか参加していない



②年代 (N=146)

「男性」(59%)、「女性」(41%)となっている。

性別(N=146)



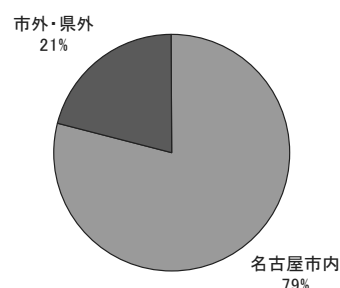
③住まい (N=143)

「名古屋市内」(79%)、「名古屋市外」(21%)となっている。

参加者の79%が名古屋市内であり、名古屋市内の内訳は、「港区」が45%と最も多く、以下、「中川区」(23%)、「熱田区」(5%)、「瑞穂区」(5%)等の順となっている。

大半が中川運河近隣の港区、中川区、熱田区からの参加であった。

住まい(N=143)

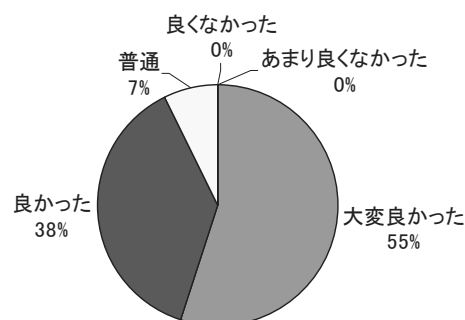


④イベントの感想 (N=138)

「大変良かった」が55%と最も高く、以下、「良かった」(38%)、「普通」(7%)の順となっている。

参加者の93%が「大変良かった」、「良かった」と感じており評価は良好であった。

水上フェスティバルの感想(N=138)



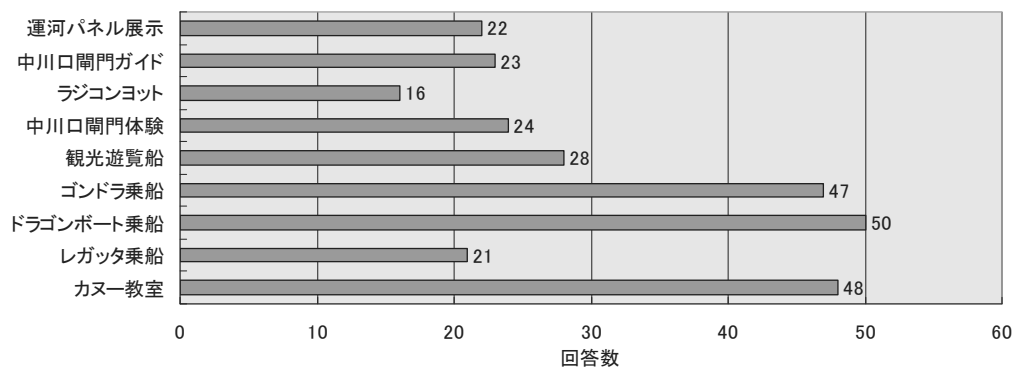
⑤よかったイベント（複数回答可）

「ドラゴンボート乗船」が 50 と最も多く、以下、「カヌー教室」(48)、「ゴンドラ乗船」(47)、「観光遊覧船」(28)、「中川口閘門体験」(24)、「中川口閘門ガイド」(23)、「運河パネル展示」(22)、「レガッタ乗船」(21)、「ラジコンヨット」(16) の順となっている。

気軽に水辺を体験できる水上レクリエーションの人気の高い結果となっている。

1 番人気のドラゴンボートは、太鼓の音にあわせて漕ぐことから乗船者が一体感を楽しむことができ、2 番人気のゴンドラについては、気軽に乗船しのんびりと景色を楽しむことができ、3 番人気のカヌーについては、水面が穏やかなため比較的容易に漕ぐことができ人気が高かったと考えられる。

今回のイベントでよかった企画は(複数回答可)



【イベント来場者の主な感想】

- ・楽しかったです。ありがとうございました。(複数回答)
- ・これからも水上フェスティバルを毎年実施してほしいです。(複数回答)
- ・もっとアピールしたらいいと思います。
- ・もう少し頻繁にイベントが開催されると良いと思います。
- ・いろんな水上スポーツを体験できて楽しかったです。
- ・楽しくカヌーに乗ることができました。
- ・倉庫業者を巻き込んでイベントを企画して欲しい。
- ・静かでよいところでした。これからも来たいと思います。
- ・家族でイベントに参加するには駐車場が必要です。屋台もあったほうがいい。
- ・中川運河クルーズ体験し、とても貴重な体験をさせていただきました。
- ・運河から橋を見ることは初めての体験で、全く違う姿で楽しかったです。閘門体験も面白かった。
- ・中川運河を環境整備も含め、観光施設として有効活用し、このような観光船が運行できないものではないでしょうか。

(3) イベント開催に関する課題

① イベント内容

参加者の6割が40代以上の中高年であり、学生層が全体の1割しかないことから、学生がもっと参加できるように検討する必要がある。

② 飲食施設

中川口緑地周辺には、休憩できる飲食施設がない。会場内で屋台などの飲食ができるように検討する必要がある。

③ 交通アクセス

地下鉄港区役所駅より徒歩10分（約800m）ではあるが、心理的に遠いイメージがある。駅から誘導などについて検討する必要がある。

④ 会場内の回遊性

会場内の移動が不便であった。フェンスなど改良する必要がある。遊歩道整備にあたり、橋下のアンダーパスの整備が望まれる。

4-2. 中川運河・素敵未来フォーラムの実施

プラットフォームでは、市民にもっと中川運河を知ってもらおうとフォーラムを開催することにした。中川運河の再生に対する様々な意見をいただくため、フォーラムに関係したパネラーとして、環境デザインの堀越先生、ランドスケープデザインの岡田先生、人文地理学の竹中先生、ボートの青山さん、コーディネーターの稀温さん、名チャリ仕掛け人の原さんに登壇していただくことになった。

(1) フォーラム概要

名 称：中川運河・素敵未来フォーラム

開催日時：平成22年2月12日（金）14：00～16：30

会 場：サンゲツ名古屋 6階 トゥインビーホール

テ ー マ：「中川運河の素敵な未来を考える」

主 催：（財）名古屋都市センター

パネリスト：青山 美紀氏（愛知県ボート協会理事・強化部副部長）

岡田 憲久氏（名古屋造形大学大学院造形研究科教授）

稀温氏（コーディネーター、KION STUDIO 代表）

竹中 克行氏（愛知県立大学外国語学部准教授）

原 佳宏氏（㈱電通中部支社プロジェクト推進部プロデューサー）

堀越 哲美氏（名古屋工業大学大学院工学研究科教授）（50音順）

進行役：羽根田 英樹氏（名古屋都市センター研究主管）

来 場 者：165名

（内訳）自治体83名、民間企業41名、市民団体・市民37名、大学関係4名



中川運河・素敵未来フォーラム会場風景

(2) フォーラムでの主な意見

①中川運河の現状をどう見るか！ポテンシャルはあるのか！

(青山氏)

ボートやスポーツの視点から考えると、大会、イベントや教室など開催し、人々が運河に立ち止まる時間をたくさんつくる。

まちなかでボートができ、2000m直線コースがとれる貴重な場所である。ただし、昭和橋～東海橋間にある水道橋の橋桁がなくなれば、ボートのメッカとなる場所である。

(岡田氏)

名駅の裏まで生命としての海が入り込んでいるのは衝撃的である。名古屋が生命をもった都市に生まれ変わるために、ひとつの生命を担う軸である。

韓国・清溪川再生をヒントにし、ものづくりのエネルギー活用した水の再生、まちなかの賑わいのある水辺空間とする。

(稀温氏)

つまらない風景がとてもおもしろく感じた。平坦な風景であり、大きなスクリーン（倉庫）が護岸に並んでいる場所は市内では他にはない。

ある程度統制のとれた景観にすることができれば、最初にアートやデザインをやっている人がおもしろがる場所である。彼らが何かをはじめると徐々に人々が集まる流れになる。

(竹中氏)

幅が広く、水位が一定、水面が近いなどの閘門式運河の特性がある。名古屋を変革した都市計画事業としてのスケールとか、統一なコンセプトのかたちを変えながら将来に向けて活かす。中川運河全体が近代化遺産であり、土木遺産である。

(原氏)

都心と港を結ぶ運河、市街地の貴重な水辺空間、歴史的遺産、文化的遺産である。しかし、都心に近いが全くつながっていない。また、産業利用で埋め尽くされており、情報発信も全くない。市民との接点が少なく、関心が持たれにくい場所となっている。

(堀越氏)

中川運河には「風の道」があり、海風が都心近くまで吹いておりヒートアイランドの抑制につながり、都心部の大事な都市環境軸である。また、緑と水をつなげるのも大事である。



まちなかでボートができる場所



水管橋（東海橋～昭和橋）の橋桁



昭和の面影を残す倉庫群



都市再生(韓国・清溪川)



「風の道」としての都市環境軸

②中川運河のめざすべき方向性

(青山氏)

道路側を走っていると排気ガスで空気があまりよくないので、遊歩道を整備しランニングコースができたりするといい。また、ボートから見ると古い橋は橋桁の間隔が狭く危ない。水辺空間を広くするために、橋を新しくするときには橋桁をなくして1スパンにする。

(岡田氏)

運河全体を水質浄化し生命あふれる空間にする。特に港明地区の東邦ガス大規模工場跡地は、運河が入り込んでいることから、エコロジカルなコンセプトをもつ緑地空間や水面を生命あふれる空間にし、にぎわいの場所をつくる。

都市の中で今一番やらなければならないのは、自然再生であり、人間再生と考える。人間再生の視点ではアートや農業が注目されている。

(稀温氏)

1つの倉庫でもいいし、いくつかの倉庫の軒先でもいいからアーティストに利用させてみる。自由な場所をつくり、よその人を受入れる場所とする。人々が入れ替わることにより、まちは活性化し、住みたいと思うまちになると美しい。

ある一定の区間だけ、一色に塗るなどアートのとおもしろい景観ができると思う。

(竹中氏)

近代化遺産として松重閘門しか注目されていないが、閘門式運河の存在そのものが遺産である。物揚場やクレーンなど産業遺産的コンセプトを活かしながら整備する。

中川運河は、地下鉄の駅から1km以上離れていて遠い。アクセスビリティ（移動手段）は、沿岸の土地を有効利用するには運河沿いの移動手段が有効である。コストや便利さを考えると都市計画道路や市バスを活用する。

歩道や橋を有効活用する。交通量が少ない橋は、歩道を広げたり、歩行者専用橋にしてみる。

創造的なモノづくりの場として工業デザインやコンテポラリーアートの場とする。

(原氏)

「運河」の存在をアピールする情報発信や「運河ならではの」の取り組みで共有体験を創出する。

また、今ある資産を活かしてみる。例えば「運河」であること。(先人たちのストーリーが資産である)、都心とは違う独自の環境がある。(独特の風景や環境がある)、スポーツコンテンツの可能性もある。(レガッタなど独自の環境がある)

（堀越氏）

運河に慣れ親しむことが大事である。必要なときに渡れる水面橋や市民が道路から水面に入れる仕組みが必要である。また、風の道を考えると沿岸側に森をつくることが大事である。



遊歩道の整備



閘門通過体験の実施（中川口閘門）



都市計画道路や市バスの活用



産業遺産（物揚場・荷役クレーン）



アートによる再生（北京・798 芸術区）



都市の農（ドイツ・クライン・ガルテン）

③中川運河において具体的に何をすべきか。最初の一步は！

（青山氏）

小さなことでもいいと思う。利用者や市民のアイデアや声を集めて、みんなに知らせることからはじめてみる。

（岡田氏）

名古屋全体、中部圏全体の水圏、風の道と絡めながら中川運河をどう位置づけるか。それを具体的に人々の集う場にするために次のステップに何をすべきか考える。

特に港明地区の東邦ガス大規模工場跡地を次世代のエネルギー利用まで含めた環境の再編というようなコンセプトをもち、大きな自然の系とどうつながるかというコンセプトをもち、人間があつまる場所としてはアートであり農業と考える。

（稀温氏）

名古屋市立大学の非常勤講師としてデザイン産業論を教えている。大学の授業にて中川運河に番地をつけてどんなビジネスをするかというプランを学生にやらせてみようと思う。いいプランがでたらフィードバックしてみたい。また、おもしろマップもやってみたい。

（竹中氏）

行政によるハコモノは不要である。モノをつくるのは民間にまかせる。既存の倉庫空間に魅力を感じるクリエイターはたくさんいると思うのでイベントなどでどんどんやらせてみる。関心をもっている人たちが自由に活用できる制度づくりを行政がやる必要がある。

（原氏）

運河を体験してもらおう。（運河を掘ってみる、使ってみる）

運河ならではの協働体験をしてもらおう。（倉庫壁面に投影する屋外映画上映会、人々がろうそくを灯すキャンドルナイト）

沿岸用地の地代を上げてみる。（中川運河の利用価値が向上するために活用する。）

（堀越氏）

できることからまずやってみる。道路から水辺に入れる路地や緩衝帯を作ったり、看板を立てる。橋を渡るとき運河に向かって手を振ってみる。小学生などに閘門通過体験をさせる。開発が進む、堀止、露橋、松重地区の回遊性をつくる。市民がお金を出せるような仕組みをつくる。

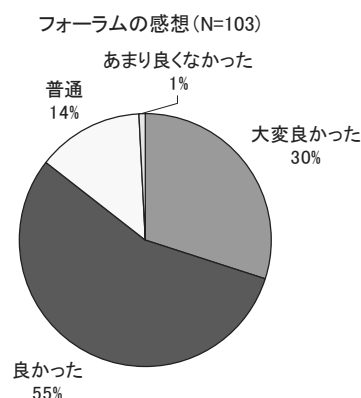
(3) フォーラムでのアンケートの結果

来場者にフォーラムの評価について簡単なアンケート調査を実施し、103名からの回答を得た。

フォーラムの感想 (N=103)

「良かった」が55%と最も高く、以下、「大変良かった」(30%)、「普通」(14%)、「あまり良くなかった」(1%)の順となっている。

参加者の85%が「大変良かった」、「良かった」と感じており評価は良好であった。



【フォーラム来場者の主な感想】

- ・パネリストの選定が様々なジャンルの方から選ばれており多方向からの意見が聞けて大変おもしろかった。(回答多数)
- ・中川運河における産業や生活に根ざした景観があると知ることができた。歴史的に生み出されるこの地域性を活かしたイベントや整備が必要と思います。
- ・名古屋の大きな財産を活かしきれていないことがよく分かった。すばらしい景観、憩いの場になる可能性がある。
- ・従来の中川運河のフォーラムと違った視点のパネラーが多くてインパクトを受けた。
- ・外国の水際とか公園とか見れておもしろかった。
- ・環境の軸としての運河とか、環境、人間の再生につながる発想などおもしろかった。
- ・「近所の住民の運河に対する想い」について考える必要があると思う。訪れる人の中には遠くから娯楽を求めてくる人と、生活圏として楽しく過ごす場として来る人があると思う。
- ・中川運河は都市基盤であるとともにドラマの舞台ともなると感じた。都市計画分野だけではなく様々な立場の方々の話が聞けて有意義だった
- ・次回は中川運河に隣接する施設でフォーラムを実施してください。
- ・具体案が示される有用な議論だと思いました。

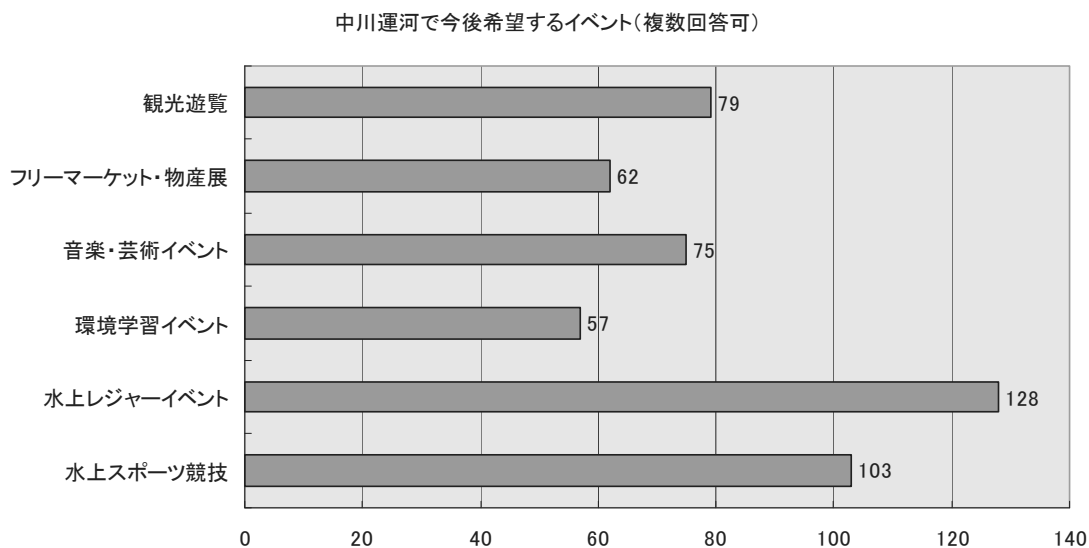
4-3. 中川運河に対する希望

中川運河水上フェスティバル及び中川運河・素敵未来フォーラムにて、中川運河で今後希望するイベントと施設整備についてアンケートを実施し、249名からの回答を得た。

(1) 中川運河で今後希望するイベント

「水上スポーツ競技」が103と最も多く、以下、「水上レジャーイベント」(95)、「観光遊覧」(79)、「音楽・芸術イベント」(75)、「フリーマーケット・物産展」(62)、「環境学習イベント」(57)の順となっている。

カヌーやゴンドラなどの「水上レジャーイベント」(128)、レガッタやドラゴンボートの「水上スポーツ競技」(103)、「観光遊覧」(79)の人気の高かった。いずれも水辺を活かしたイベントであり、水辺に憩いや賑わいを望む結果となった。

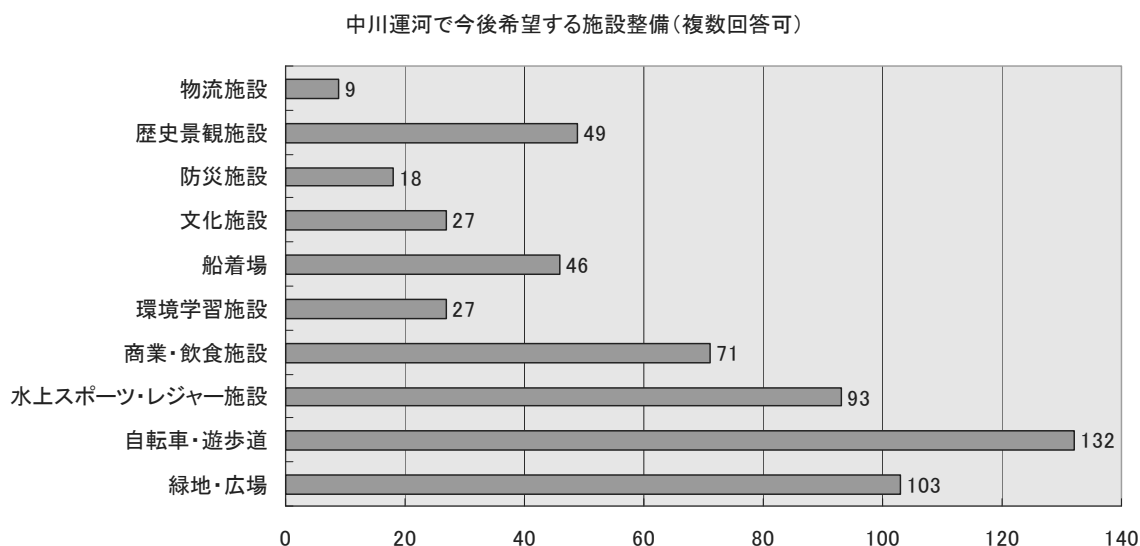


(2) 中川運河で今後希望する施設整備

「自転車・遊歩道」が132と最も多く、以下、「緑地・広場」(103)、「水上スポーツ・レジャー施設」(93)、「商業・飲食施設」(71)、「歴史景観施設」(49)、「船着場」(46)、「環境学習施設」(27)、「文化施設」(27)、「防災施設」(18)、「物流施設」(9)の順となっている。

「自転車・遊歩道」(132)、「緑地・広場」(103)、「水上スポーツ・レジャー施設」(93)の人気の高かった。

いずれも水辺に近づける、水辺で憩える施設を望む結果となった。また、「商業・飲食施設」(71)の人気もあり、水辺の風景を見ながら休憩できる施設や賑わいとなる施設を望む結果となった。



（３）中川運河に対する意見・要望

アンケートにより中川運河に対するさまざまな意見・要望をいただいた。環境整備では、水質改善の意見が最も多く、緑地や遊歩道などの親水空間整備の意見も多かった。また、水域利用では、水上遊覧など水面活用の意見が多かった。

アンケートにおいて主な意見を以下に示す。

【環境整備】

- ・もっと水をきれいにしてほしい（回答多数）
- ・運河沿いに遊歩道をつくる（回答多数）
- ・緑をもっと増やしてほしい（回答多数）
- ・公園を増やしてほしい（回答多数）
- ・四季折々の草花の咲くような緑園が必要である
- ・10年前に比べ水がきれいになった、今後も水質保全に努めてほしい
- ・人が水辺に近づけるように整備する
- ・桜並木があればいい
- ・ランニングコースをつくる

【水域利用、賑わい空間】

- ・水面をもっと有効に利用し、市民の方々に親しまれる中川運河にする（回答多数）
- ・水上遊覧船を通航させてほしい。
- ・プロムナードとちょっとした店、カフェ、アートスペースをつくってほしい
- ・観光のための施設の充実(駐車場、トイレ等)
- ・水辺沿いを散策、散歩できるようにし、倉庫を利用し水辺におしゃれなレストラン、アートなデザイン等いろんな人たちのたまり場をつくる
- ・ベネチア、柳川のような観光スポットとなるような空間をつくってほしい
- ・倉庫群を活用する
- ・富山の富岩運河再生のように、ささしま、露橋を都心のオアシスにする
- ・松重閘門を開通してほしい
- ・街中のボート競技会場として整備してほしい
- ・中川運河でフリーマーケットなどのイベントを実施する

【交通】

- ・名古屋駅からのアクセスを向上する必要がある
- ・名チャリ活動を実施し、地下鉄駅やおおなみ線駅からも活用できるようにする
- ・名古屋港と中川運河を行き来できるように、シャトルバス等の交通手段が必要
- ・交通手段として中川運河兩岸の道路をもっと活用すべきである

【防災】

- ・中川運河を防災機能としてもっと活用する

【その他】

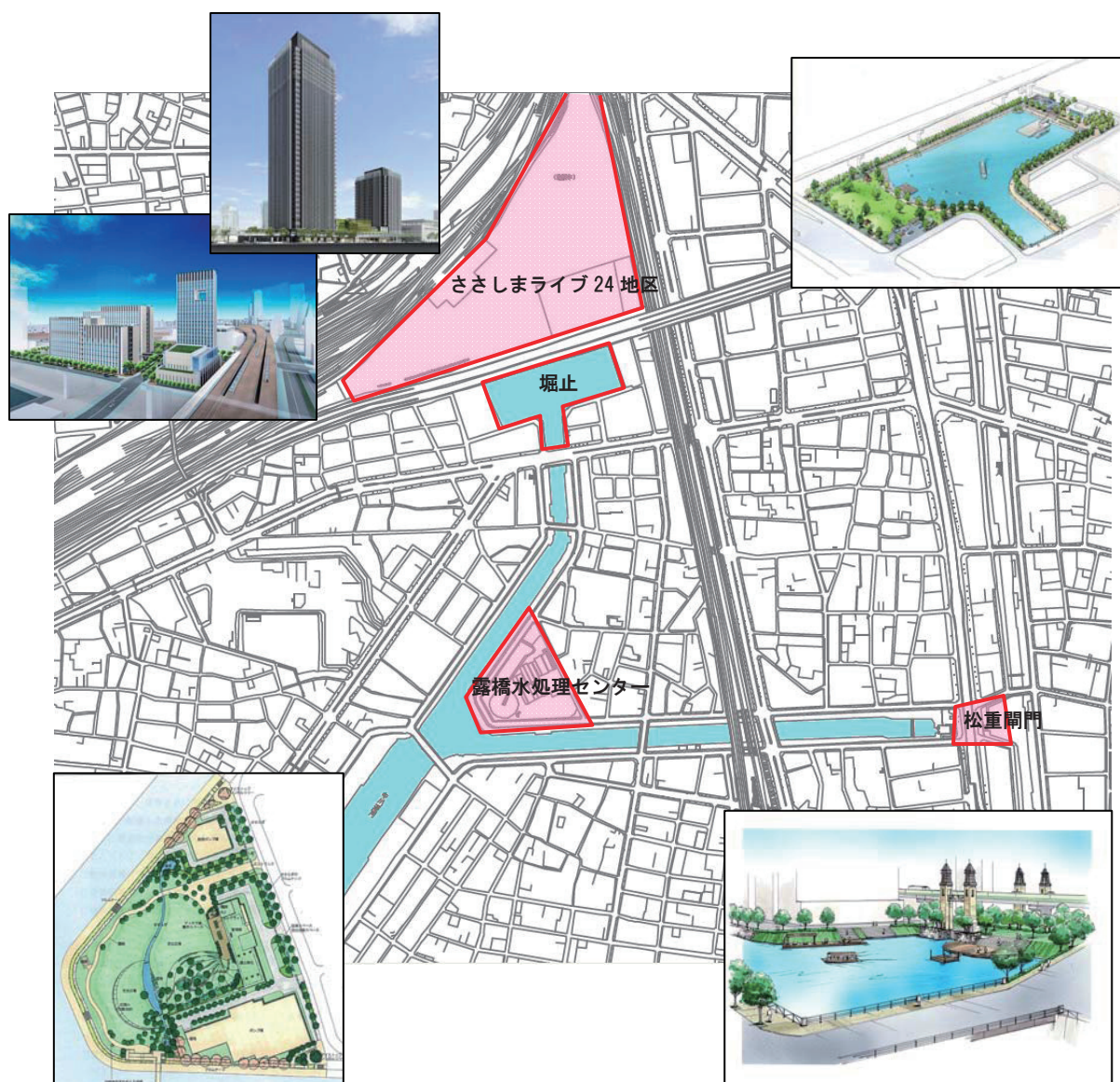
- ・都心部の地代を上げる
- ・背後地との連携した整備をするべきである
- ・運河沿いの空間を都市的な土地利用（住宅、教育、研究施設など）に転換する

第5章 中川運河の再生に向けての展望

中川運河の再生に向けて、市民や企業の意見を反映することが必要である。市民アンケートにおける中川運河の要望や意見を踏まえ、中川運河で今後大きく変貌する可能性のある堀止・露橋地区と港明地区に着目し再生に向けての取り組みを展望する。

5-1. 堀止・露橋地区

都心の賑わい空間をめざし、「ささしまライブ24」地区では再開発が進められている。そこを訪れた人々がさらに堀止緑地、露橋水処理センター、松重閘門を訪れることができるように、水辺風景の眺望や回遊性のある空間整備や土地利用転換を図り、賑わいの連続性を確保することが望ましい。



5-2. 港明地区

商業施設（ベイシティ）や東邦ガス大規模工場跡地を視野に入れ、荒子川公園と港北公園を結び回遊性を確保し、水と緑の回廊にすることで魅力ある空間形成が期待できる。また中川口では、レガッタやカヌーイベント等水上スポーツ・レクリエーションのこれまでの経験を活かし、一層発展させていくことが望ましい。



第6章 まとめ

今回の活動を通じて、中川運河には多くのポテンシャルが多くあり、都心の魅力ある水辺空間であることを再認識できた。中川運河は、名古屋の貴重な水辺空間であり、市民の共有財産である。中川運河の再生に向けて、水質を浄化し、市民が水面に近づき、ふれあい、魅力を感じてもらうことが大事である。

参考文献

名古屋港管理組合「名古屋港史」
名古屋市「名古屋史」
名古屋都市センター「名古屋都市計画史」
名古屋商工会議所名古屋港研究会「これからの中川運河のあり方」
NPO 法人伊勢湾フォーラム「中川運河の研究」
名古屋港 URL、名古屋市 URL、国土交通省港湾局 URL、東京都港湾局 URL、富山市 HP、尼崎市 URL、NPO 伊勢湾フォーラム URL

Ⅲ. 資料編



第1回

中川運河 水上フェスティバル

小雨決行

名古屋港から笹島まで約8km。まっすぐ伸びる中川運河はかつて東洋一の規模といわれ、荷物を運ぶ水路として大活躍しました。この貴重な産業遺産をいかし、名古屋に新しい水辺の文化が育つことを願って第1回中川運河水上フェスティバルを開催します。

日時 10月24日(土) 10:00~16:00

場所 中川口閘門~いろは橋界限
(中川運河河口域)



会場風景

教室
体験乗船!
当日受付

カヌー教室開催!!
レガッタやドラゴンボートには
体験乗船できるよ!! 無料



カヌー教室

穏やかな水面を軽やかに進むカヌーやレガッタ、勇壮なドラゴンボートを体験しよう。参加希望者は裏面の注意をよく読んでね。



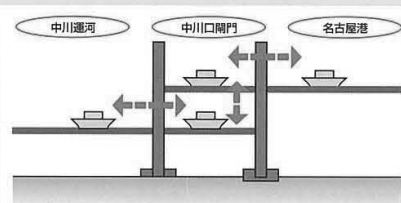
レガッタ



ドラゴンボート

観光遊覧船乗船の方は、パナマ運河と同じ仕組みの中川口閘門を通過体験できます。

中川運河の水位は名古屋港より低いので閘門で水位を同じに調整して船を通します。有名なパナマ運河と同じ仕組みを実際に体験してください。



観光遊覧船

観光遊覧船乗降場所
(ポートビル桟橋)

デモ演技

さっそうと水面を走る
ラジコンヨットの
デモ演技も見てね!!



ラジコンヨット

体験
体感!

有料・予約優先

ゴンドラ、
観光遊覧船にも乗ろう!



ゴンドラ

ゴンドラ乗降場所
(名古屋港漕艇センター)

主催 中川運河再生実行委員会
後援 ライオンズクラブ(みなと・熱田・瑞穂・中川・シニア・ウォリティ)
NPO法人伊勢湾フォーラム
中川運河・堀川魅力再発見プロジェクト協議会
国土交通省中部地方整備局・名古屋市・名古屋港管理組合・名古屋都市センター
協力 海津カヌー協会・NPO法人アクアフィールド長良・名古屋市ポート協会・
愛知県カヌー協会・東海龍舟クラブ・NPO法人ゴンドラと堀川水辺を守る会・
桑名クルーズ・日本模型ヨット協会中部支部・
名古屋みなと建設工事安全連絡協議会
事務局 052-951-4882(中川運河再生実行委員会)

交通アクセス

- 地下鉄名港線港区役所駅 2番出口 徒歩約10分
- 地下鉄名港線築地口駅 4番出口 徒歩約10分
- あおなみ線荒子川公園駅 徒歩約20分



ゴンドラ・観光遊覧船 乗船申込書

●本申込書に記入し、ファックスにてお申し込みください。▶▶▶ **052-951-4882**

A コース	ゴンドラ 定員 4名	乗船時間:約15分 ☐ 午前の部 / 10時~13時 ☐ 午後の部 / 13時~16時 ご希望の時間帯に○印をおつけください。	
		発着場所:名古屋港漕艇センター	
		申込責任者 お名前 (歳)	同行者 お名前 (歳)
		ご住所	お名前 (歳)
		連絡先	お名前 (歳)
B コース	観光遊覧船 定員 40名	乗船時間:約2時間 ☐ 午前の部 / 10時~13時 ☐ 午後の部 / 13時~16時 ご希望の時間帯に○印をおつけください。	
		発着場所:ポートビル桟橋	
		申込責任者 お名前 (歳)	同行者 お名前 (歳)
		ご住所	お名前 (歳)
		連絡先	お名前 (歳)

お申し込みの前にお読みください

- 乗船のご予約は、できる限り4名様以内でお申し込みください。
- 各コースとも乗船一回につき、お一人500円の乗船協力金(大人・子供同一金額、保険料含む)をいただきます。
※乗船協力金は当日、乗船前にお支払いいただきます。
- ※締め切り:10月13日(火)必着 お申し込み順に乗船者を決めさせていただきます。
- ※事務局よりハガキにて集合時間・場所をお知らせいたします。
- ※10月20日(火)までに連絡のない場合は満席のためご容赦願います。
- 当日の天候により乗船中止となる場合もございますのであらかじめご了承ください。また、当日は都合により乗船をしばらくお待ちいただくこともあります。

はがきでお申し込みの場合、上記項目を参考に必要事項をご記入の上、下記宛先までお送りください。

郵政はがき
460 0003
名古屋市中区錦3-2-1
NPO法人伊勢湾フォーラム内
中川運河再生実行委員会 行

- 希望コース
- 希望時間帯
- 申込責任者の
お名前、年齢、
ご住所、
電話番号
- 同行者の
お名前、年齢

〒460-0003 名古屋市中区錦3-2-1
NPO法人伊勢湾フォーラム内
中川運河再生実行委員会 行

カヌー教室、レガッタ、ドラゴンボート体験乗船参加の注意事項

事前にお読みください

- 参加資格: ●小学6年生以上の男女(ただし、小学6年生および中学生は保護者の同意が必要です)
●20m以上泳げ、参加規約に同意できる方。
※ゴンドラ・観光遊覧船は除く。
- 注意事項: ●帽子、タオルをご持参ください。必要であれば着替えをご持参ください。
●服装は水分を吸収しにくく、発汗性の良いもの、靴は水中に脱げにくく、動きやすいものを推奨します。
※デニムのジーンズの着用はお勧めできません。
●個人の判断で、スイムキャップ、ゴーグルを使用してください。
※救命胴衣は事務局で用意いたします。※ゴミは各自お持ち帰りください。※貴重品等お荷物はご自身で管理してください。
- 事前説明: ●カヌー教室およびレガッタ、ドラゴンボート体験乗船の実施に先立ち、以下の説明を行います。
・カヌーおよびレガッタ、ドラゴンボートの特性と危険部分について説明します。
・カヌーおよびレガッタ、ドラゴンボートの事故について説明します。
・使用用具の取り扱い方法、危険な取り扱い方法について説明します。
・万が一、転覆した場合の対応の仕方について説明します。
- 参加規約: 【指導の遵守と自己管理責任】
・カヌー、レガッタ、ドラゴンボートは水上スポーツであり、その特異性と危険性を十分に理解し、指導者およびスタッフの指導、指示に従ってください。
・自分の体調の異変や変調を感じた時には、ただちに指導者、スタッフに申し出て参加を中止してください。
【負傷等、事故について】
・カヌー教室、レガッタ、ドラゴンボート、ゴンドラ、観光遊覧船体験乗船中の負傷、死亡事故発生の場合、その補償は主催者が契約する保険の範囲内であることとします。また、その原因のいかんを問わずすべてのフェスティバル開催関係者に対する責任の一切は免責されるものとします。
【免責事項】
・天災、気候状況の悪化、開催環境の不良など不可抗力の事由によってカヌー教室およびレガッタ体験乗船の中止、変更がある場合もありますので予めご了承ください。
・個人の所有物の紛失、毀損、盗難に関しては主催者に重大な過失がある場合を除き、免責とさせていただきます。
【肖像の広報、報道使用と個人情報の取り扱い】
・本フェスティバルの広報における参加者の肖像利用に関しては、当該者の事前了承なしに実施できるものとします。なお、参加者の氏名、住所、連絡先などの個人情報に関しては広報、報道においても一切使用することはありません。
※肖像に関するすべての広報、報道への使用を拒否される場合には事前に主催者側にお知らせください。
【調停と専属管轄権】
・万が一、フェスティバル主催者と争いが生じた場合、その第一の専属管轄権は名古屋地方裁判所とし、準拠法は日本法とすることとします。

第1回中川運河水上フェスティバルアンケート

中川運河再生実行委員会
(財)名古屋都市センター

本日は、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。
今後の参考にさせていただくため、以下のアンケートにご協力お願いします。
該当する番号に○をおつけ下さい。

Q1. 年代 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代
7. 70歳以上

Q2. 性別 1. 男性 2. 女性

Q3. お住まい 1. 名古屋市内 () 2. 市外・県外 () 市・町・村

Q4. 今回の第1回中川運河水上フェスティバルについてのご感想をお聞かせ下さい。

1. 大変良かった 2. 良かった 3. 普通 4. あまり良くなかった 5. 良くなかった

※4と5に記入した方にお聞きします。

何が不満でしたか ()

Q5. 今回のイベントでよかった企画どれですか。 (複数回答可)

1. カヌー教室 2. レガッタ乗船 3. ドラゴンボート乗船 4. ゴンドラ乗船
5. 観光遊覧船 6. 中川開門体験 7. ラジコンヨット 8. 中川開門ガイド
9. 運河パネル展示

Q6. 中川運河で今後希望するイベントはどれですか。 (複数回答可)

1. 水上スポーツ競技 2. 水上レジャーイベント 3. 環境学習イベント
4. 音楽・芸術イベント 5. フリーマーケット・物産展 6. 観光遊覧
7. その他 ()

Q7. 中川運河で今後希望する施設整備はどれですか (複数回答可)

1. 緑地・広場 2. 自転車・遊歩道 3. 水上スポーツ・レジャー施設
4. 商業・飲食施設 5. 環境施設学習 6. 船着場
7. 文化施設 8. 防災施設 9. 歴史景観施設 10. 物流施設
11. その他 ()

Q8. 中川運河に対するご意見・ご提言を自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

3(日曜日)

中

回

乗

昇

降

車

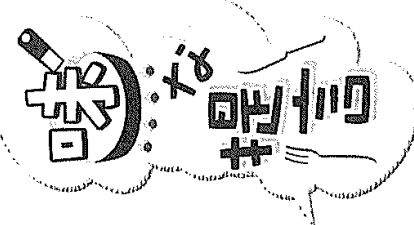
内

外

第3種郵便物認可

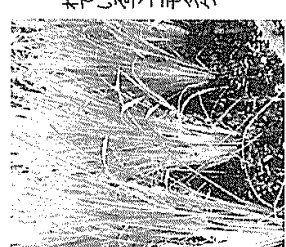
091025

私は豊後富士を真正
面に見る、自然豊かな
静岡県伊豆の国市に生
まれました。夏は緑一
面の水田が、秋には黄



に熟成し、さらには付
属農場に転住し、おれ
ばと嫌っていた農業現
場の研究、教育が本業
となりました。幸い、

オリサチセンター特任教授



荒廃した水田で栽培さ
れているコマタナ

この神事に使われる沼
沢性植物です。このマ
コモに黒穂菌が共生す
ると、そのホルモン作
用で穂となる基部がタ
ケノコ状に肥大しま
す。それ故、マコモタ
ケはキノコでもタケノ
コでもなく「シヤオパ
イ」と呼ばれる中華料
理の高級食材です。
黒穂菌は麦の重大病
害で、安全性を危惧す

さいぐさ、
出身。東北土
了。同大農学
部教育研究
7年より豊後
学会会長、一
長、日本学芸
連合会、
河マコモ研究
作物学、
住、66歳。

ゴンドラやドング
の体験乗船を
楽しむ人々
の中川運河で

ゴンドラで 中川運河 めぐる秋



「中川運河水上フェスティバル」が二
十四日、港区中川本町二の名古屋運艇
センター前を中心とした中川運河一帯で
あり、佳良ら約三百人が水上スポーツを
楽しんだ。中川運河に親しんでもらおう
と初めて開催された。(森知恵理子)

水上フェス初開催

運河全域を回る観光遊
覧船では、パナマ運河と
同じ仕組みの中川口閘門
を通過。中川運河は名古
屋港より水位が低く閘門
で上下に調整するため、
乗員は「水のエレベータ
ー」を体験した。ドラゴ
ンボートやレガッタなど

の本艇乗船もあった。
ゴンドラに乗った磯部
喜代子さんは、「中川区
は「ゆつたりとせいた
くな気分を味わえた」。
少女の松岡弥生さん(三
)も「同じ水が近くて
楽しかった。水が澄んで
いるのもとても良いかも」
と話していた。主催団体
の一つNPO法人伊勢湾
フォーラムの山口長水事
務局長は「今回の経験を
踏まえて来年以降も継続
したい」と話していた。

鶴舞公園の緑を 未来へつなごう



100周年記念シンポ

昭和区の鶴舞公園の
開設100周年を記念した
シンポジウム「未来へ
つなごう緑の公園に市
同公園振興会など主
催」が二十四日、公園
内の市公会堂で開催
された。
造園家で中部大教授
の浦井雅之さんが「都
市と緑、公園の未来」
と題して講演し、写真
「地球の生態系を守る
には、共同体を再構築
する以外にない。公園

はもともと公衆保健衛
生の場所だった」と語
った。
「市民と創る夢の公
園」をテーマにしたパ
ネル討論があったほ
か、公園の清掃や美化
に貢献した北区の砂田
朝一さんと中村区の吉
塚公園愛護会、守山区
の巨谷が丘街園街路樹
特定愛護会に感謝状が
贈られた。また、鶴舞
公園では同日、フアミ
リーウォーキングや自

名大70周年 地域とお祝い

市民、OB招き
講演や演奏会
千種区の名古屋大東
山キャンパスで二十四
日、卒業生や市民らに
公開するホームカミン
グデーが開催された。
創立七十周年を記念
し「人と人を結ぶマ
ゼーション」がテーマ。

大学文芸資料室長の羽
賀桂一・文学研究科教
授は「写真」は「七十年
の歴史」と題して講演
し、名大は
さまざまな
大学がある
同大を遍
覧する
マゼンバ
の歴史館





中川運河・ 素敵未来フォーラム

中川運河は、都会のとても貴重な水辺空間です。
少しレトロな雰囲気も漂わせたこの運河は明日の名古屋を先導するはず。
中川運河の素敵な未来を考えましょう！フォーラムにぜひご参加ください。

日時：平成 22 年 2 月 12 日（金）14：00～16：30（開場 13：30）

会場：サンゲツ名古屋 6 階 トウインビーホール
（名古屋市西区幅下 1－4－1）

定員：150 名（申込先着順） 参加費：無料

主催：名古屋都市センター

テーマ 「中川運河の素敵な未来を考える」

論 者 青山 美紀氏（愛知県ボート協会理事・強化部副部長）
岡田 憲久氏（名古屋造形大学大学院造形研究科教授）
稀 温氏（コーディネーター、KION STUDIO 代表）
竹中 克行氏（愛知県立大学外国語学部准教授）
原 佳宏氏（㈱電通中部支社プロジェクト推進部プロデューサー）
堀越 哲美氏（名古屋工業大学大学院工学研究科教授）（50音順）

進行役 羽根田英樹氏（名古屋都市センター研究主管）

NAKAGAWA CANAL SUTEKI-MIRAI FORUM

論者が語る・・・

- ・中川運河のポテンシャル！
- ・運河の今を脱却できるか！
- ・最初の一步、私たちは何を！

	青山 美紀(あおやま みき) (愛知県ポート協会理事・強化部副部長) CA商友ポートクラブに所属。その後、デンソーポート部の選手として活躍する。1999 年から旭丘高校ポート部のコーチとして同高ポート部をインターハイ優勝に導く。また、名古屋大学ポート部のコーチも兼務しながら、中川運河にて指導にあたっている。 愛知県ポート協会では、強化部副部長を務める。		岡田 憲久(おかだ のりひさ) (名古屋造形大学大学院造形研究科教授) 信州大学農学部林学科卒業 専門はランドスケープデザイン。 景観設計室タブラ・ラサを主宰し、中部国際空港アクセスプラザガーデン、ルーセント・タワー公開空地、アルペン丸の内タワー公開空地などを設計。著書に都市の中で自然とともにある文化としての日本庭園を読み解いた『日本の庭ことはじめ』がある。
	稀温 (きおん) (コーディネーター、KION STUDIO代表) 名古屋モード学園在学中にコスチュームや販促企画で活動開始。流通、外食企業勤務を経て1991 年よりフリー。衣・食・住・遊など様々なジャンルでプロデュースやコーディネート業務を行う。商業施設『さくらアパートメント』やイベント『クリエイターズマーケット』をプロデュースした。現在はテレビ塔パークギャラリーを企画運営。		竹中 克行(たけなか かつゆき) (愛知県立大学外国語学部准教授) 東京大学大学院総合文化研究科修了、博士(学術)。 専門は人文地理学、社会経済地理学。 地域に蓄積された資源に徹底的にこだわるスペインのまちづくり・ものづくりを中心テーマに調査・研究を積み重ねている。最近では、遺産都市・港湾都市の環境価値の発見と再生戦略に関心をもってしている。
	原 佳宏(はら よしひろ) (㈱電通中部支社プロジェクト推進部プロデューサー) 電通中部支社でプロモーション部門・企画開発部門・マーケティング部門などを経て、2008 年よりプロジェクト推進部プロデューサー。 自治体、公益企業、教育機関、流通、レジャー施設、通信など幅広い業種の広報・広告企画に従事した経験を活かし、現在は地域プロジェクト企画開発に取り組んでいる。		堀越 哲美(ほりこし てつみ) (名古屋工業大学大学院工学研究科教授) 東京工業大学大学院建築学修了、博士。 専門は建築都市環境デザイン、環境心理、産業技術史、気候景観。 2005 年～2006 年に名古屋都市センター客員研究員として都市環境軸(風の道等)に関する調査研究を行う。 現在、名古屋市経営アドバイザーも務める。

申込方法

名古屋都市センターまで申込書にて FAX または E-mail にてお申し込み下さい。

FAX:052-678-2211

E-mail:machisemi@nui.or.jp

※Eメールでお申し込みの際は、件名に「中川運河・素敵未来フォーラム参加申込み」とご明記ください。

申込締切日

平成 22 年 2 月 9 日(火)

(定員となり次第締め切ります。)

※会場案内(サンゲツ名古屋)
地下鉄鶴舞線浅間町駅下車
2 番出口より徒歩8分



申し込み・問い合わせ先

財団法人名古屋都市センター 調査課
〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目 1 番1号 金山南ビル内
TEL 052-678-2216(※月曜休み) FAX 052-678-2211
E-mail machisemi@nui.or.jp URL http://www.nui.or.jp

中川運河・素敵未来フォーラム参加申込書

氏名(ふりがな)	
所 属	
電話番号	

お申し込みいただいた個人情報は、当フォーラムの案内以外で使用することはありません。

平成 22 年 2 月 12 日
「中川運河・素敵未来フォーラム」

アンケートのお願い

(財)名古屋都市センター

本日は、フォーラムにご参加いただきまして、誠にありがとうございました。
今後の参考にさせていただくため、以下のアンケートにご協力お願いします。
該当する番号に○をおつけ下さい。

A. あなたのご職業をお答えください。

1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 学生 5. その他

B. 今回のフォーラムを何でお知りになりましたか？

1. チラシ（開催案内） 2. 都市センターホームページ
3. 知人等からの紹介 4. 新聞記事 5. その他（ ）

C. 今回のフォーラムについてのご感想をお聞かせ下さい。

1. 大変良かった 2. 良かった 3. 普通 4. あまり良くなかった

()

D. 中川運河で今後希望するイベントはどれですか。（複数回答可）

1. 水上スポーツ競技 2. 水上レジャーイベント 3. 環境学習イベント
4. 音楽・芸術イベント 5. フリーマーケット・物産展 6. 観光遊覧
7. その他（ ）

E. 中川運河で今後希望する施設整備はどれですか（複数回答可）

1. 緑地・広場 2. 自転車・遊歩道 3. 水上スポーツ・レジャー施設
4. 商業・飲食施設 5. 環境施設学習 6. 船着場
7. 文化施設 8. 防災施設 9. 歴史景観施設 10. 物流施設
11. その他（ ）

F. 中川運河に対するご意見・ご提言を自由にお書き下さい。

()

ご協力ありがとうございました。

開通80年

中川運河の再生討論

西区内
フォーラムで 専門家が未来像示す



開通八十年を迎えた中川運河の再生活用策を考える「中川運河・素敵未来フォーラム」が、西区内のホールで

開かれた。役割の薄れた物流の動脈に代わる未来像を語り合った。運河は名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅を結ぶ

八・二キロ。取扱貨物量は一九六四（昭和三十一年）年の四百万トをピークに四万トにまで減少した。一方で、一時ひどかった水質悪化も改善が進んでいる。

フォーラムは、堀川に比べて存在感の薄い中川運河に光を当てようと、名古屋都市センターが企画。都市設計やデザインなど各分野の専門家が討論を繰り広げ、市民やまちづくり関係者ら約百五十人が参加した。

中川運河の再生活用策を話し合う研究者ら「西区幅下」のサンゲン名古屋で

県ボート協会の青山美紀理事は「水鳥や魚もいる。ボートにはもってこいの場所なので、大会や教室を開き、運河にとどまる時間を増やせれば」と提案した。名古屋造形大学の岡田憲久教授は「名駅のすぐ後ろまで入り込んでおり、生命を持った都市に生まれ変わるための可能性を秘めている」と緑地化などのアイデアを披露した。（奥田哲平）

中川運河の再生に向けた活動報告

発 行 平成22年3月
財団法人 名古屋都市センター
〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目1番1号
TEL 052-678-2200
FAX 052-678-2211
印 刷 名港印刷 株式会社

この印刷物は再生紙を使用しています。

